

リアホナ

表紙の記事——

「なぜ泣いているのか」
空の墓から慰めを得る, 8ページ

聖文学習を成功させる^{ひけつ}秘訣,
15, 16ページ

あなたを愛する人たち
「フレンド」8ページ

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)
大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト
十二使徒定員会:ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング、ディーター・F・ウークトドルフ、デビッド・A・ベドナー
編集長:ジェイ・E・ジェンセン
顧問:モンティ・J・ブラフ、ゲリー・J・コールマン、菊地良彦
実務運営ディレクター:デビッド・フリッシュニク
編集ディレクター:ビクター・D・ケーブ
主任編集者:ラリー・ヒラー、リチャード・M・ロムニー
グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボグ
編集主幹:ビクター・D・ケーブ
編集主幹補佐:ジェニファー・L・グリーンウッド
副編集長:ライアン・カー、アダム・C・オルソン
編集補佐:スーザン・バレット
編集スタッフ:シャナ・バトラー、リンダ・ステール・クーバー、ラリー・ン・ポーター、ガート、R・バル・ジョンソン、キャリー・カステン、メルビン・リービット、サリー・J・オドカーク、ジュディス・M・バーラン、ピピアン・ポルセル、サラ・R・ポーター、ジェニファー・ローズ、ドン・L・サール、レベッカ・M・テラー、ロジャー・テリー、ジャネット・トーマス、ポール・バンデンバーク、ジュリー・ワーデル、キンバリー・ウェッブ
主任秘書:モニカ・L・ディッキンソン
編集インターン:ブリタニー・ジョーンズ・ビーム、ニコール・セイモア
マーケティング部長:ラリー・ヒラー
実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ
アートディレクター:スコット・バン・カンペン
制作主幹:ジェン・アン・ピーターズ
デザイン・制作スタッフ:カリ・R・アロヨ、コレット・ネベカー・オヌ、ハワード・G・ブラウン、ジュリー・パーデッド、トーマス・S・チャイルド、レジナルド・J・クリステンセン、キャスリーン・ハワード、デニス・カービー、タッド・R・ピーターソン、ランドール・J・ビクストン
印刷ディレクター:クレーク・K・セジウィック
配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、「[リアホナ]注文用紙」でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351
定 価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)
半年予約 1,200円(送料共)
普通号/大会号 200円
[リアホナ]への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。
Room 2420, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
電子メール: liahona@ldschurch.org

[リアホナ](モルモン書に出てくる言葉、「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。
アイスランド語、アルバニア語、アルメニア語、イタリア語、インドネシア語、ウクライナ語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カンボジア語、キリバス語、クロアチア語、サモア語、シンハラ語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブアン語、タイ語、タガログ語、タビタ語、タミル語、中国語、チェコ語、テルグ語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ルウェー語、ハイチ語、ハンガリー語、フィンランド語、フィリピン語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポルトガル語、マーシャル語、マダガスカル語、モンゴル語、ラトビア語、リトアニア語、ルーマニア語、ロシア語。(発行頻度は言語により異なります)
©2006 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷:日本
[リアホナ]に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において臨時に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。
英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月
原題—International Magazines April 2006.
Japanese. 26984 300
[リアホナ]は、教会のホームページwww.lds.org(英語)に様々な言語で掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をクリックしてください。その他の言語は世界地図をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:
April 2006 no. 4 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

一般

- 2 大管長会メッセージ——最高の自分になる 第一副管長 トーマス・S・モンソン
- 8 福音クラシック——園から空になった墓へ
- 12 見失ったものを見つける マリー・サンチェス
- 25 家庭訪問メッセージ——一人一人の姉妹の神聖な価値を強調する
- 28 宣言から得られる導きと、慰めと、靈感 E・ジェフリー・ヒル
- 33 足もとの子供たち アイダ・L・ユイング
- 34 独身者と既婚者——ともに信仰の道を歩む キャスリーン・ルーベック・ピーターソン
- 39 末日聖徒の声

解任の面接 オフェリア・フルタード
食料品か、什分の一か シャーロット・アーノルト
あなたたちの本は真実の本です アン・キュー
福音の中で成長する ドーグラス・ザルド

34 独身者と既婚者——ともに信仰の道を歩む



家庭の夕べのためのアイデア

クラスや家庭において、『リアホナ』を使ってより効果的に福音を教えるために、このページに提案されているアイデアを役立てることができます。

「園から空になった墓へ」

8ページ——この記事を利用して、復活祭の活動を組み立ててください。引用された話を順番に読むように家族に割り当てます。救い主、復活祭、聖餐せいさんに関する歌や賛美歌を選び、朗読と朗読あかしの間に、証をしてください。



「御言葉が目の前にあるので」16ページ

——モルモン書から、家族にとって意味があると思われる章の一つを選んでください。デビッド・A・ベドナー長老が教えている、聖文研究のための5つの原則について説明します。その原則に従って、選んでおいた章を研究しましょう。また、「家族の聖文日記」を書くことを検討しましょう。家族にとって意義のある聖句を見つけ、そこから学んだことや感じたことを記録しましょう。



ユタ州アメリカンカンパニー、アルタス・フライン・アート社の厚紙画より掲載。複製は禁じられています。

「なぜ泣いているのか」サイモン・デューイ画

「イエスは女に言われた、『女よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか。』マリヤは、その人が園の番人だと思って言った、『もしあなたが、あのかたを移したのであれば、どこへ置いたのか、どうぞ、おっしゃって下さい。わたしがそのかたを引き取ります。』イエスは彼女に『マリヤよ』と言われた。マリヤはふり返って、イエスにむかってヘブル語で『ラボニ』と言った。それは、先生という意味である。』(ヨハネ20:15-16)

青少年

- 7 ポスター——死よ、おまえの勝利は、どこにあるのか？
- 15 わたしの聖文の秘密 メリッサ・ドマイヤー・アイナ
- 16 御言葉が目の前にあるので
十二使徒定員会
デビッド・A・ベドナー
- 22 真理を見いだす闘い
ドン・L・サール
- 26 家庭の平安 匿名
- 44 最高のカムバック
リチャード・D・ホークス
- 46 質疑応答——学校の友達はわたしが教会員だということを知っていて、いつも嫌がらせをしたり、からかったりします。どうすればいちばん上手に対処できますか。



22 真理を見いだす闘い



天の御父は御自分の子供たちに多くのことを約束しておられます。わたしたちは、正しいことを選ぶときに約束された祝福を受けることができます。今月号からCTRの指輪の写真が毎月『リアホナ』のどこかに掲載されます。今月号に隠されたCTRの指輪を探すとき、救い主に感謝したいことがどれだけあるか思い起こしてみてください。

【最高のカムバック】44ページ——人の感情を損ねそうな、しかもだれにでも起きる可能性のある状況を、幾つか書き出してください。この状況を家族でロールプレーし、その後で、ほかの人の気持ちにもっと敏感になり、怒る代わりに赦すにはどうすればよいかを、この記事を使って話し合ってください。

【ただのホームティーチャーではなく】F10ページ——記事を読み、エリクソン兄弟のホームティーチャーとしての賢明な行いについて、家族と話し合ってください。思いやりのあるホームティーチャーには、どのような特質がありますか。それらのキリストのよ

うな特質を伸ばすにはどうすればよいかを話し合ってください。人の必要を満たすために助けることの大切さを証してください。

【わたしがイエス・キリストを信じる理由】F14ページ——記事の中の太字で書かれている言葉を一つずつ、別々の紙に書いて、容器に入れてください。家族で記事を読んでから紙を1枚ずつ取り出し、その言葉はリンジーが証を得るためにどのように役に立ったかを話し合ってください。証を強めるために助けになったと感じることを作文や絵、歌で表現するように家族に言ってください。

フレンド

- F2 預言者の声——主は生きておられます
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- F4 分かち合いの時間
——わたしはくいあらためてしあわせになれます
リンダ・マグレビー
- F6 ウィルフォード・ウッドラフだいかんちょうのしょうがいから
——しんりを聞く
- F8 あなたをあいし、あなたにつかえてくれる人たち
- F10 ただのホームティーチャーではなく テス・ヒルモ
- F13 歌——小さな声で メリル・ブラッドショー
- F14 わたしが
イエス・キリストを
信じる理由
リンジー・M
- F16 イエスのように——
バプテスマを受ける決意

F10 ただのホームティーチャーではなく



表紙

表紙——「エマオのキリスト」カール・ヘンリック・ブロック画、デンマーク、ヒレズのフレズレクスボー城内にある国立歴史博物館の厚意により掲載、複写は禁じられています

裏表紙——「そのかたは、ここにはおられない」マーク・エルバート・イーストモンド画、複写は禁じられています

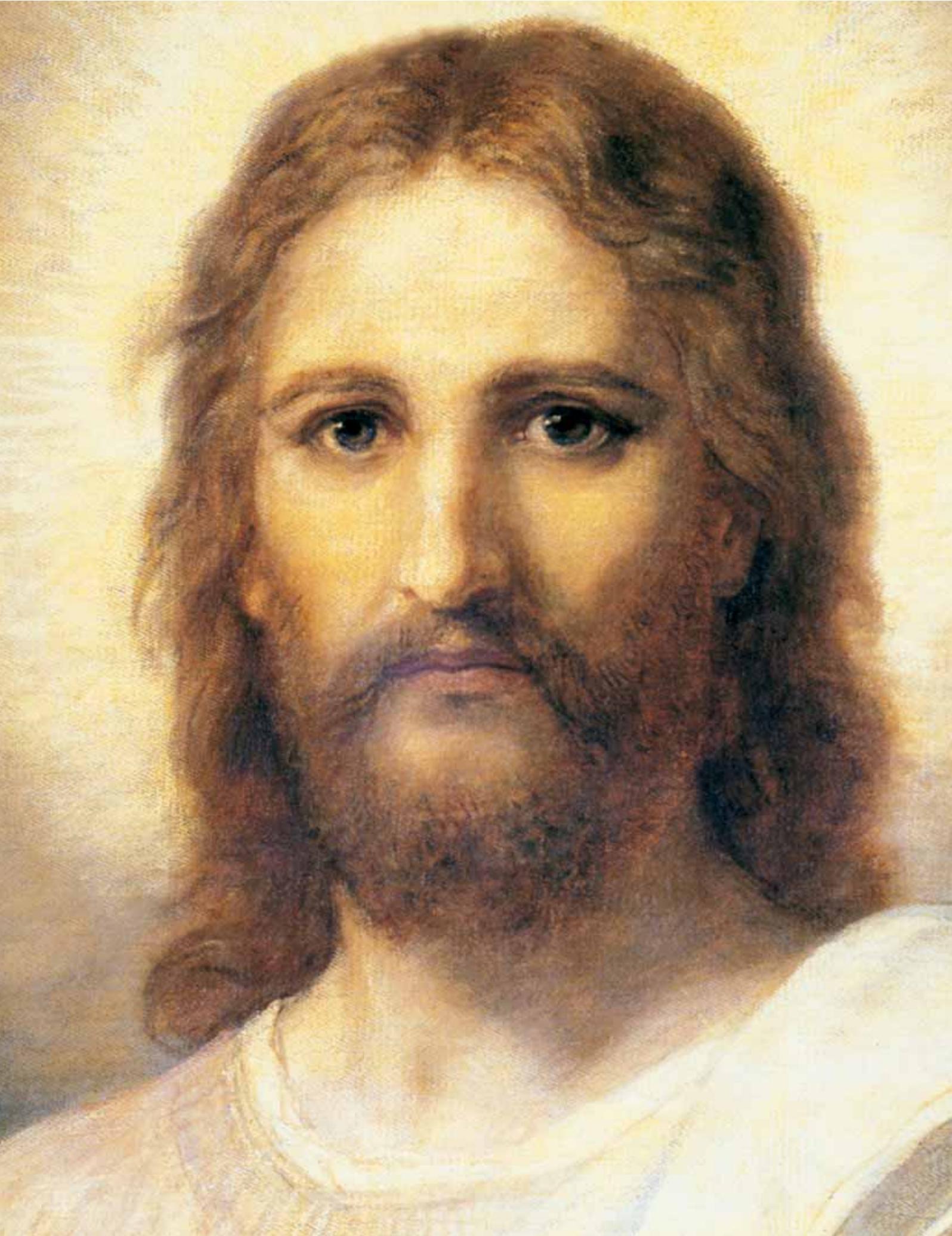
「フレンド」表紙

「わたしがあなたがたを愛したように」サイモン・デュエイ画、ユタ州アメリカンフォーク、アルタス・ファイン・アート社の厚意により掲載、複写は禁じられています

今月号に採り上げられているテーマ

Fは「フレンド」の略

愛F8	初等協会F4
証F6, F14	神殿活動12
贖い8	神殿結婚12, 39
イエス・キリスト2, 7, 8, F2, F14	聖文研究15, 16
一致34, 44	聖霊F13
歌F13	伝道活動22, 39, F6
教えること1	独身者34
家族12, 26, 28, 33	迫害46
家族に関する宣言28	バプテスマF16
家族歴史12	復活7, 8
家庭のタペ1	復活祭8, F2
家庭訪問25	奉仕2, 39, F8
神の特質25	ホームティーチング6, F10
悔い改めF4	ポーランド22
子育て28, 33	模範2, 44, 46
死28	モルモン書22, 39
十字架上の死8	論争26
什分の一39		



最高の自分になる

第一副管長

トーマス・S・モンソン

ずっと昔、遠く離れた場所で、わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストは、群衆と弟子たちに「道と真理と命」¹ について教えられました。主は、自らの神聖な言葉で勧告を与え、自らの生活によって模範を示されました。

主の教えと模範を身近に知っていたペテロは、人々に次のように問いかけました。「あなたがたはどのような人であるべきか。」² 主イエス・キリストは、アメリカ大陸の人々を教え導いていたときに、その問いに対する答えとして、意味深い言葉を授けられました。「あなたがたはどのような人物であるべきか。まことに、あなたがたに言う。わたしのようでなければならない。」³

最高の自分を求める

主は地上で教えと導きを授けておられた間に、最高の自分になるためには、どのようにに生活し、教え、奉仕し、何を行えばよいのか説明されました。

その教えの一つが聖書のヨハネによる福音書にあります。

「ピリポがナタナエルに出会って言った、『わたしたちは、モーセが律法の中にしるしており、預言者たちがしるしていた人、ヨセフの子、ナ

ザレのイエスにいま出会った。』

ナタナエルは彼に言った、『ナザレから、なんのよいものが出ようか。』ピリポは彼に言った、『きて見なさい。』

イエスはナタナエルが自分の方に来るのを見て、彼について言われた、『見よ、あの人こそ、ほんとうのイスラエル人である。その心には偽りが無い。』⁴

この世の旅では、使徒パウロの勧告が天からの導きを与えてくれます。「すべて真実なこと、すべて尊ぶべきこと、すべて正しいこと、すべて純真なこと、すべて愛すべきこと、すべてほまれあること、また徳といわれるもの、称賛に値するものがあれば、それらのものを心にとめなさい。」そして、結びの勧告が続きます。「わたしから学んだこと、受けたこと、聞いたこと、見たことは、これを実行しなさい。そうすれば、平和の神が、あなたがたと共にいますであろう。」⁵

最高の自分を求めるには、幾つかの質問について考える必要があります。わたしはなりたいたい自分になっているだろうか。今日は昨日より救い主に近づいているだろうか。明日はもっと近づけるだろうか。向上するために変わる勇気があるだろうか。

家族の道を選ぶ

今こそ、これまでしばしば忘れられてきた道、すなわち「家族の道」を選ぶ時なのです。そうすれば、子供や孫たちはほんとうに成長し、可



最高の自分を求めるには、幾つかの質問について考える必要があります。わたしはなりたいたい自分になっているだろうか。今日は昨日より救い主に近づいているだろうか。明日はもっと近づけるだろうか。向上するために変わる勇気があるだろうか。

どの ような 態度を

取るようになるか、
何を心から
信じるように
なるかは、
家庭の中で決まります。
希望が
はぐくまれるのも家庭、
くじかれるのも
家庭なのです。
わたしたちの家庭は、
神の御霊が
宿ることのできる場所、
この世の嵐が
入り込まない場所、
隅々まで
愛で覆われている場所、
平安が宿る場所
なのです。



能性を十分に発揮できるようにな
るでしょう。全世界で一つの強い傾向があり、
次のようなメッセージを静かに伝えるようにな
ってきました。「先祖に立ち返りなさい。家
族に立ち返りなさい。家族が学んだ教え、家
族が生きた人生、家族が示した模範、すなわち
家族が伝えてきた価値観に立ち返りなさい。」
たいていの人のとっ
て、そうするため

に必要なことは、ただ家庭に戻る
ことです。家に帰って、古いものがし
まってある物置に久しぶりに入ってみたり、
日記を読み返してみたり、忘れかけていたア
ルバムを開いてみたりすることです。

スコットランドの詩人ジェームズ・バリーは
言いました。「神は人に記憶を与えてくださ
った。それは、12月にバラを思い出せるようにす
るためだ。」⁶ わたしたちには母親についてど
のような思い出があるでしょうか。父親、祖父
母、家族、友人についてはどうでしょうか。

わたしたちは父親からどのような教えを受け
てきたでしょうか。何年も前に、十二使徒補助
のエルレイ・L・クリスチャンセン長老(1897-
1975年)は、ある父親から、買ったばかりのボ
ートの名前を考えてほしいと言われました。そ
こでクリスチャンセン長老は『安息日違反号』に
したらどうですか」と提案しました。船長気取
りのその男性は、自分の誇りと喜びであるその
ボートを、安息日違反号と名付
けるか安息日遵守号と名付
けるか真剣に考えたことでしょう。ど
ちらの名前にするにせよ、ずっと
心に残る深い印象を子供たちに
与えたはずで

どのような態度を取るようにな
るか、何を心から信じるように
なるのかは、家庭の中で決まり
ます。希望がはぐくまれるのも
家庭、くじかれるのも家庭なの
です。わたしたちの家庭は、聖所
以上となるべきです。神の御霊
が宿ることのできる場所、この世
の嵐が入り込まない場所、隅々
まで愛で覆われている場所、平
安が宿る場所
なのです。

以前、ある若い母親から次のよ
うな手紙を受け取りました。
「わたしは時々不安になりま
す。子供に良い影響を与え
ているという自信がない
のです。特に我



が家は母子家庭で、わたしは二つの仕事を掛け持ちして何とか家族を養っています。仕事から帰宅すると家の中がめちゃくちゃに散らかっていることもあります。希望だけは捨てません。

あるとき、子供たちと一緒に総大会のテレビ中継を見ていると、モンソン副管長が祈りについて話をしておられました。すると息子がこう言いました。『このことは、もうお母さんが教えてくれたよね。』わたしが『どういう意味なの』と聞くと、息子は答えました。『お母さんは、お祈りするようになって教えてくれたし、お祈りの仕方も教えてくれたよ。それに、この前の夜、聞きたいことがあってお母さんの部屋に行ったら、お母さんはひざまずいて神様にお祈りしていたんだ。もしお母さんにとって神様が大切なら、ぼくにとっても大切なんだと思うよ。』彼女の手紙は次の言葉で結ばれています。「子供にどのような影響を与えるかは、教えるようにしていることを親が実際にやっている様子を見れば分かります。」この子は母親から何と大切な教を学んだことでしょうか。

少年のころ、ある母の日に、日曜学校で驚くような発見をしました。今でも心に残っています。ワードにはメルビン兄弟という全盲の男性がいました。メルビン兄弟には、歌の才能がありました。彼は会衆の方を向いて立ち上がると、まるで一人一人が見えているかのように顔を向けました。それから「あのすばらしき我が母」を歌いました。母親についての美しい思い出が、皆の心を打ちました。男性はハンカチを取り出し、女性の目は涙であふれていました。

執事であるわたしたちは、植木鉢に入れた小さなゼラニウムの花を運んで回り、すべての母親に渡しました。若い母親や中年の母親、年老いて何とか生活している母親もいました。わたしは、どの母親の目も優しい目であることに気づきました。どの母親も「ありがとう」と言ってくれました。わたしはそのとき、次の言葉が言わんとしている精神を感じていました。「花を贈る人の手には、その香りがいつまでも残る。」わたしはこの教訓を忘れたことはありません。これからも忘れないでしょう。

わ たしたちは
御業のために
生涯をささげる
よう求められています。
教え、学ぶべき
教訓があり、
救うべき人がいる
のです。



命をささげて奉仕する

時は巡り、年月は過ぎ去っていきますが、福音について証する必要性は変わりません。未来に向かって前進するときも、過去の教訓を見遇ごしてはなりません。天の御父は御自分の御子を与えてくださったのです。神の御子は御自分の生涯と命を与えてくださったのです。わたしたちは御二方から御業のために、いわば、生涯をささげるよう求められているのです。あなたには、わたしには、そしてわたしたちには、そのような覚悟があるでしょうか。教え、学ぶべき教訓があり、行うべき親切な行為があり、救うべき人がいるのです。

ベニヤミン王の勧告を思い出しましょう。「あなたがたが同胞のために務めるのは、……神のために務めるのである……。」⁷ あなたの助けが必要な人に、手を差し伸べてください。もっと気高い道へ、もっと良い道へ、彼らを引き上げてください。初等協会の歌にこうあります。「わたしを助けて、導いて、いつかみもとへ、行けるように。」⁸ 純粋な信仰は、子供に限らず、すべての人が身に付けられます。箴言はこう教えています。

「心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない。

すべての道で主を認めよ、そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」⁹

この教えに従うならば、主の聖なる用向きを受けていること、神の神聖な目的が達成されていること、そして自分もその一翼を担っていたことを悟る時が来るでしょう。

この真理について、わたしの経験を話しましょう。何年も前に、監督を務めていたとき、わたしは、オーガスタ・シュナイダー姉妹を訪問するようという強い促しを感じました。彼女はヨーロッパのアルザス・ロレーヌ地域の出身で、ご主人はすでに他界していました。英語はほとんど話せませんが、フランス語とドイツ語が流暢でした。初めて促しを感じて以来何年も、クリスマスの季節に訪問しました。あるとき彼女が言いました。「監督、わたしにとって、とても価値あるものを差し上げたいのですが。」そして、小さなアパートの奥へ行くとその贈り物を持って来ました。見ると、縦6インチ

(15センチ)横8インチ(20センチ)ほどの美しいフェルトに、幾つかの勲章が留めてありました。ご主人が第一次大戦でフランス軍の一員として働いた功績に対して贈られたものでした。彼女は言いました。「わたしにとって大切なこの宝物を受け取っていただきたいのです。」わたしは丁寧に断り、親戚のだれかに託すように提案しました。彼女は断固として言いました。「いいえ、これはあなたに差し上げます。あなたにはフランス人魂がありますから。」

この特別な贈り物をわたしに渡してから間もなく、オーガスタはこの世を去って、彼女に命をお与えになった神のもとへ召されました。時々わたしは、フランス人魂があると言った彼女の言葉を不思議に思いました。その意味がまったく分かりませんでした。それはいまだに分かりません。

何年もたち、わたしは恵まれて、ベンソン大管長(1899-1994年)と一緒に、ドイツのフランクフルト神殿の奉獻式に行くことになりました。それはドイツ語、フランス語、オランダ語を話す会員のための神殿です。旅行の仕度をしていると、なぜかは分かりませんが、あの勲章を持って行くべきだと強く感じました。わたしはその勲章を長年の間取っておいたのです。

フランス語の奉獻式に集まった人で、神殿は満員でした。歌も話もすばらしいものでした。一人一人の心は、神の祝福への感謝に満たされました。司会者用のメモを見ると、アルザス-ロレーヌ地域の会員たちが出席していました。

わたしは話の途中で、オルガニストの男性の名前がシュナイダーであることに気づきました。そこで、オーガスタ・シュナイダー姉妹との話をし、オルガンのところに行き、オルガニストにその勲章を手渡しました。そして、同じシュナイダーという名前なので、シュナイダー家の系図を探求する責任を果たすようお願いしました。主の御霊がわたしたちの心に、それが特別なセッションであることを告げていました。シュナイダー兄弟は、奉獻式の閉会の賛美歌を弾くとき、御霊に強く感動したため、準備に手間取っていました。あのとき神殿にいた人は皆、同じ御霊を感じていました。

この大切な贈り物は、シュナイダー姉妹の全財産であり、まさに「やまめのレプタ」でした。その贈り物は今や、一人の兄弟の手に置かれました。この兄弟は、フランス人魂を持つ多くの人々が、聖なる神殿の祝福を受けられるように助けてくれることでしよう。この祝福は、今生きている人々と、すでに現世の幕を越えて亡くなった人々の両方のために備えられているのです。

神がともにいらっしゃれば、不可能なことは何もありません。神はわたしたちの天の御父であられ、神の御子はわたしたち

の贖い主です。神の真理を学んで実践しようと努力するとき、わたしたちの生活も、人々の生活も、豊かに祝福されます。

わたしは心から証します。ゴードン・B・ヒンクレー大管長はわたしたちの時代の真の預言者であり、大管長の指示の下で前進を続けるこの偉大な業において、大管長が常に神の導きを受けていることを証します。

神の戒めに従うならば、約束された祝福が与えられることを覚えていられますように。わたしたち一人一人がその祝福を受けるにふさわしくなれますように。■

注

1. ヨハネ14:6参照
2. 欽定訳2ペテロ3:11から和訳
3. 3ニーファイ27:27
4. ヨハネ1:45-47
5. ビリビ4:8-9
6. *Courage* (1925年), 1
7. モーサヤ2:17
8. ナオミ・W・ランドール「神の子です」『賛美歌』189番
9. 箴言3:5-6

ホームティーチャーへの提案

このメッセージをよく祈って研究した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。

1. 訪問する際、以下のもの(または類似のもの)を用意します——鏡、家の絵(写真)、庭仕事で使う道具。3ニーファイ27:27を読んで、その聖句がこの3つのものとのような関係があるか尋ねます。イエス・キリストに似た者となる3つの方法をモンソン副管長が教えていることを指摘します。それぞれの項を学ぶときに、モンソン副管長の教えを思い起こすための象徴として、対応する3つのものを使います(例——「最高の自分を求める」の項では、鏡を使う)。

2. モンソン副管長はこう尋ねています。「父親からどのような教えを受けてきたでしょうか。」この記事から一つの例を紹介します。それから、家族に自分の家で学んだ教訓について尋ねます。適切であれば、その話を録音し、家族の歴史記録に加えるように勧めてもよいでしょう。

3. メッセージを復習して、こう尋ねます。「モンソン副管長のメッセージで何が心に残りましたか。モンソン副管長はこのメッセージからわたしたちに何を学んでほしいと望んでいると思いますか。モンソン副管長はこの教えを学んだわたしたちに何を行うように望んでいると思いますか。」

死よ、おまえの勝利は、 どこにあるのか

「キリストにあってすべての人が生かされるのである。」
(1コリント15:22。55節も参照)



園から空になった墓へ

ゲツセマネ

ジェームズ・E・タルメージ長老 (1862-1933年)

「ゲツセマネとは、『油搾り機』という意味であり、そこで栽培されていたオリーブの実から油を搾るための機械に関係があると思われる。ヨハネは、ゲツセマネが園、または庭であると言っているが、その名称から、そこが個人の所有するある囲まれた土地であったと見なすことができよう。ヨハネはまたそこが、イエスが一人で祈りたいときに、または弟子たちとひそかに話をしたいときに、しばしば行かれた所であったと記している(ヨハネ 18:1, 2)。」(『キリスト・イエス』601)

ジョセフ・フィールディング・スミス 大管長 (1876-1972年)

「わたしたちはイエス・キリストの受難ということをよく口にする。イエスが手足に釘を打ち込まれて十字架につけられたときが最も苦悩の大きな時であったと思っている人が非常に多い。しかし最も大きな苦悩は、十字架にかけられる前に受けられた。血が体の毛穴から流れたのはゲツセマネの園においてであった。『その苦しみは、神であって、しかもすべての中で最も大いなる者であるわたし自身が、苦痛のためにおののき、あらゆる毛穴から

血を流し、体と霊の両方に苦しみを受けたほどのものであった。そしてわたしは、その苦い杯を飲まずに身を引くことができればそうしたいと思った。』(教義と聖約19:18)

これはイエスが十字架につけられていたときではなく、園におられたときのことであった。体のすべての毛穴から血を流されたのはここであった。

わたしはこの苦悩を理解することができない。わたしも苦しんだことがあるし、あなたがたも苦しんだことがある。そして時には厳しい苦悩もある。しかしわたしは肉体上の苦しみというよりは精神上の苦悩で、血が汗のように体から出てくるような苦悩というものを理解することはできない。それは何か恐ろしいぞっとするようなものであった。したがってなぜイエスが天の御父に、次のように叫ばれたかを理解することができる。

『もしできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの思いのままではなく、みこころのままになさって下さい。』(『マタイ26:39』)(『救いの教義』ブルース・R・マッコンキー編、全3巻、第1巻、125-126)

エズラ・タフト・ベンソン大管長 (1899-1994年)

「イエスは、裏切られる日の夜、十二使徒のうち3人を連れて、ゲツセマネと呼ばれる場所に行き、そこで、あらゆる人の苦痛を引き受けられた。イエスは、神以外には耐えることのできない苦しみを受けられたのである。それは、わたしたちの労苦を背負い、わたしたちの悲しみを担い、わたしたちの背きの傷を受け、イザヤの預言にあるように、わたしたちすべての者の罪惡を自発的に受け入れることであった(イザヤ53:4-6参照)。

イエスとその身に世の罪を引き受けられたのは、ゲツセマネの中でのことであった。このゲツセマネで主の受けられた苦悩は、あらゆる人の重荷を集積したものと等しかった。このゲツセマネで、すべての人が悔い改めて御自分のもとに来ることができるよう、イエスはあらゆるものの下に身を落とされたのである。わたしたちの主の苦しみの大きさや深さ、強さについては、いかなる人知をもってしても理解できず、いかなる言葉をもってしても表現できず、いかなるペンをもってしても描写できない。それは、イエスがわたしたちに対して抱いておられる永遠の愛についても同様である。」(The Teachings of Ezra Taft Benson [1988年], 14)

ジェームズ・E・タルメージ長老

「ゲツセマネの園におけるキリストの苦悶は、その大きさにしても原因にしても、人間の心では計り知れないものである。……イエスに、あらゆる毛穴から血が吹き出るほどの苦痛を与えたのは、肉体の苦しみでもなければ、心の苦しみでもなく、それは神だけが経験することのできる、身と霊の両方にかかわる霊的な苦悩であった。肉体的に精神的にどれほど耐えられる人であっても、イエスのほかにそのような苦しみに耐えられなかったであ

ろう。その肉体は苦しみに屈してしまい、仮死の状態が無意識と忘却に陥ったことであろう。その苦悩のときに、イエスは、『この世の君』、すなわちサタンが加えることのできるあらゆる恐怖に立ち向かい、これに打ち勝たれたのである。……

人間には理解できないが、実在する非常に現実的なある方法によって、救い主はアダムからこの世の終わりに至るまでの人類の罪を御自身に引き受けられた。』（『キリスト・イエス』594-595）

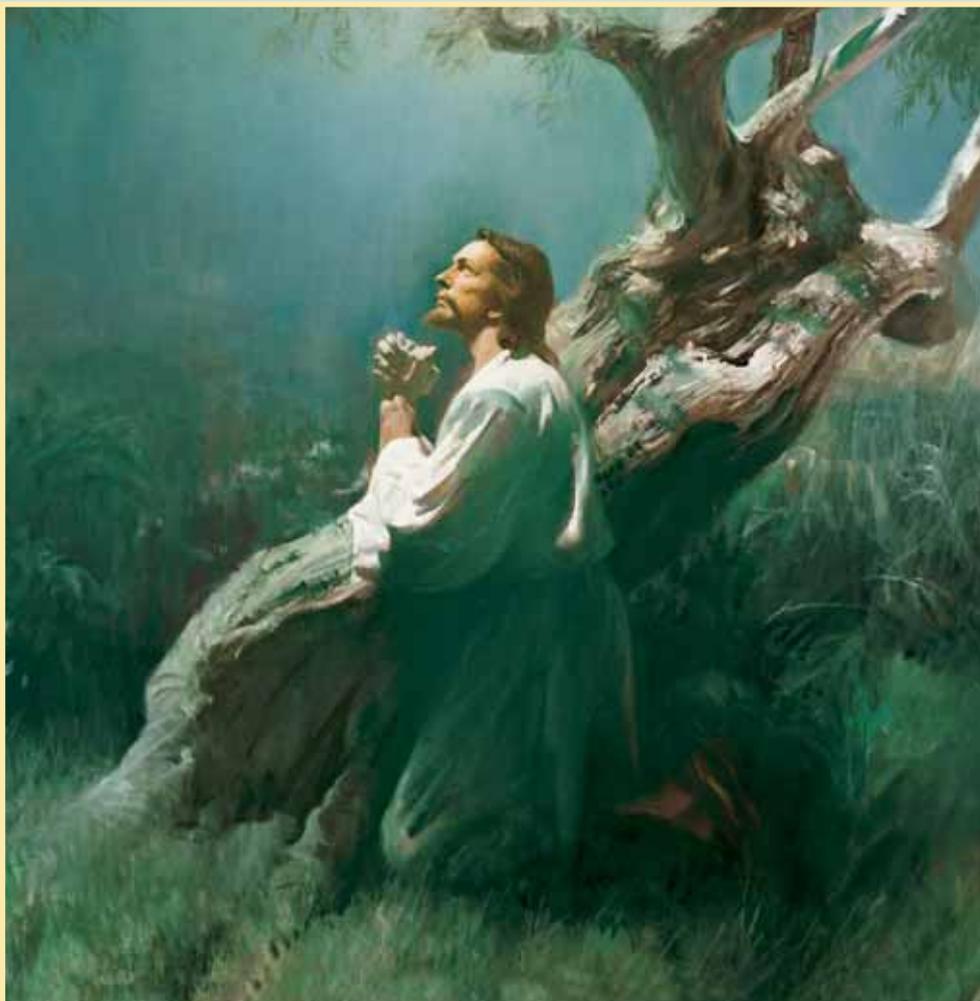
ジョン・テラー大管長（1808-1887年）

「一気にのしかかるこの重荷、強烈で、想像を絶する圧力、神の定められた正義の恐ろしいまでの要求、ひ弱な者なら縮み上がってしまっていたであろうようなこうしたもの下でうめきながら、また、血を汗のように多量に滴らせるという経験に苦悶しながら、イエスはついに叫ばれた。『わが父よ、もしできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。』（マタイ26:39）イエスは、かつて、荒野でのしかかる重荷と格闘しておられた。そこでイエスのうえに襲いかかることを許された暗黒の力と戦われたのである。また、あらゆるものの下に身を落とされ、その心は苦悩と苦痛の重荷でつぶされそうであった。一人孤独で、明らかに助けもなく、見捨てられ、毛穴から血を流すほどの苦悩の中におられたのである。』（*The Mediation and Atonement*〔1882年〕、150）

カルバリ

ジェームズ・E・タルメージ長老

「それは十字架の刑に従って生じる恐るべき苦悶に加えて、ゲツセマネの園における苦悶が、人間の力に耐えられぬほどの強さになってまた迫ってきたものようであった。その最も悲痛なときに、いまや死のうとしておられたキリストは、最も恐るべき現実の中に孤立しておられた。御子のささげられる最高の犠牲が、少しも欠けることなく完全に首尾よく成し遂げられるために、御父は人類の救い主が罪と死の力に打ち勝ち、完全な勝利の誉れを独りで得よう、御子のすぐ近くにいるという支えを取り去られたと思われる。……



気が遠くなった時期と、まったく捨てられたという思いはすぐに過ぎ去って、肉体の持つ自然の渴望がまた痛切に感じられた。十字架の刑を受けた者が最も苦しみ、気も狂わんばかりになるのは渇きであるが、救い主もこれをつぶやかれた。これは肉体の苦痛を表すただ一つの言葉として記録されている。主イエスは、『わたしは、かわく』と言われたのである〔ヨハネ19：28〕。ローマ人かユダヤ人か、弟子か無神論者か分からないが、そばに立っていた者の一人が、そこに酸いぶどう酒の入れてあった器があったので、そのぶどう酒を急いで海綿いっぱいに含ませ、これをあし葦またはヒソブの茎に結びつけてイエスの熱のある唇に押しつけた。……

イエスは御自分がもはや捨てられたのではなく、御自分のあがな贖いの犠牲が御父に受け入れられ、また肉体に宿っているうちに果たすべき使命が首尾よく輝かしい成果を取めるに至ったことを完全に知ると、神聖な勝利を高い声で叫ばれた。『すべてが終わった』と〔ヨハネ19：30〕。イエスは恭しく、すべてを御父に任せ、すべての苦痛から免れて、御父に話しかけられた。『父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます。』〔ルカ23：46〕 イエスはこうべ頭を垂れ、自発的に命を捨てられた。

キリスト・イエスは死なれた。しかし、イエスの命は、それを取ることを許さないかぎり、イエスから取り上げられることはなかった。ゲツセマネの園からカルバリの十字架に至るまで、イエスが受けられた苦痛の段階のうち、どの点において死なれても、そこで苦痛がなくなることは甘くまた喜ばしいものであったかもしれない。それでもイエスは前もって定められていた



ように、万事が終わるまでは命を捨てずに生きておられた。』（『キリスト・イエス』642-643）

空になった墓

ジョン・テラー大管長

「主は神として万物の下に身を落とし、墮落した状態にある人間に御自身を従わせられました。また主は人として、この世における苦しみに付き物のあらゆる状況に取り組みられました。確かに、喜びの油を友よりも多く注がれた主は、人と悪魔の力、それに地と地獄が手を結んだ力と格闘し、制圧なさいました。また神会のより高い力に支

えられ、主は死と地獄と墓を征服し、神の御子、まことの永遠の父、メシヤ、平和の君、贖い主、世の救い主として勝利を取られました。』（『歴代大管長の教え——ジョン・テラー』43-44）

スペンサー・W・キンボール大管長 (1895-1985年)

「ただ神のみがこの復活の奇跡を起こすことができになったのである。義の教師として、イエスは人々を導いて善い行いをさせ、預言者として、未来を先見された。人々の中であって知の指導者として、教会を組織し、神権を持つ御方、神権を尊んで大いなるものとする御方として、病人を癒し、

盲人の目を見えるようにし、さらに死者をよみがえらせることすらされた。しかしながら、神としてのイエスのみが、自らを墓からよみがえらせることができ、永遠に死に打ち勝つことができ、朽ちるものに代わって朽ちないものを、死すべき状態に代わって不死不滅をもたらすことができになったのである。……

いかなる人の手も、封印された扉を開け放つことはもとより、復活させたり、回復させたりすることはできなかった。いかなる魔術師、妖術師も、主の体を癒すという領域に踏み込むことはできなかった。また、癒すためにだれかが神権を行使したのでもなかった。ただ、自らの意志で意図的に御自分の命をささげた神のみが、御自分の中にある神の権能によって、再びその命を得ることができになったのである。……御自身で十字架から天の御父のもとにゆだねられた霊は、後の主の教えによれば、霊界を訪れ、また戻って来られた。そして、埋葬所の何ものをも通さない岩の壁をもともせず、その中に入り、肉体と再び合して、岩の扉を転がして開けさせ、この世での歩みを再び始められた。その肉体は不死不滅に変えられ、朽ちないものとなった。あらゆる力がよみがえり、目覚めたのである。

筆舌に尽くし難いと言われるが、そのとおりである。また、確かに想像を絶する。しかしながら、議論の余地もない。500人以上もの信頼できる証人たちが、そのイエスと接したのである。ともに歩み、ともに語り、ともに食し、その骨肉の体に触れ、わき腹と手足にある傷跡をその目で見たのである。また互いに共通する話題について話し合ってもいる。そして、数多くの確実

な証拠により、イエスがよみがえられたこと、また最後の最も恐るべき敵、すなわち死が克服されたことが、広く知れわたり、証されたのである。……

ゆえにわたしたちも証する。地球とそこにある万物を創造された御方、ベツレヘムでの降誕に先立って度々地上にその御姿を現された御方、すなわち、神の御子であるイエス・キリストは、復活し、不死不滅となっておられることを。そして、復活と不死不滅というこの偉大な祝福は、今では、わたしたちの贖い主を通じて、人類共通の遺産となっていることを。」(The Teachings of Spencer W. Kimball, エドワード・L・キンボール編[1982年], 17-18)

ゴードン・B・ヒンクレー大管長

「やがて週の初めの日の夜明けがやって来ました。今、わたしたちはその日を主の安息日としています。悲しみに打ちひしがれてその墓に足を運んだ人々の前に天使が現れ、こう宣言しました。『あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。』(ルカ24:5)

『もうここにはおられない。かねて言われたとおりに、よみがえられたのである。』(マタイ28:6)

それは人類の歴史の中で最も偉大な奇跡でした。イエスはかつて『わたしはよみがえりであり、命である』と語られたことがありますが、人々にはそれが理解できませんでした(ヨハネ11:25)。しかし、今初めて彼らはその意味を悟ったのです。悲しみと苦しみ、孤独のうちに亡くなった主が、その3日後には力と美と命をまとい、死の眠りに就いた人々の初穂としてよみがえられたのです。イエスの復活は、『アダムにあってすべての人が死んで

いるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである』という保証を、あらゆる時代の人々に与えるものでした(1コリント15:22)。

カルバリで息を引き取ったイエスが、今や生けるキリストとして墓からよみがえられました。十字架はユダの裏切りがもたらした残酷な結果であり、ペテロの否定に続く出来事でした。空になったその墓は、今ではイエスの神性を証し、人々に永遠の命への確信を与え、『人がもし死ねばまた生きるでしょうか』というヨブの質問に対して答えを与えるものでした(ヨブ14:14)。……

救い主は今も生きておられます。わたしたちが、主の死の象徴を信仰のしるしとして用いないのはそのためです。では信仰のしるしとして何を用いるべきなのでしょうか。いかなるしるしや芸術、形であろうと、生けるキリストの栄光とすばらしさを表現するには適切とは言えません。主御自身は、何を象徴とすべきかについて、次のようにおっしゃっています。『もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。』(ヨハネ14:15)

主に従う者であるわたしたちが、下品で、卑しく、見苦しい行いをするなら、主の象徴を汚してしまうこととなります。逆に、善い行い、憐れみと惜しみない愛の行いをするなら、キリストの象徴をさらに明るく輝かすことができます。わたしたちはキリストの御名を受けているのです。わたしたちは、自分たちの生活を意義深いものとし、それをもって象徴としなければなりません。生けるキリスト、生ける神の永遠の御子への証を、各自の生き方を通して宣言しなければならぬのです。」「わたしたちの信仰の象徴」『リアホナ』2005年4月号, 4-6 ■

見失ったものを見つめる

わたしは、見失われた先祖の名前を見つめ出す業を助けることに喜びを感じる一方で、指針を見失った自分の娘を助けられずに苦しんでいました。

マリー・サンチェス

そのとき、わたしは、教会記録のマイクロフィルムを熱心にのぞき込み、スペイン北部に住んでいた先祖の名前を次から次に読んでいたところでした。数世代も前に、優雅な手書きのスペイン語で書かれたものです。どの家族も、何世紀にもわたって小さな漁村に平和に暮らしていました。主を愛し、互いに愛し合って暮らしていたのです。村は小さな入り江の奥でひっそりと、ユーカリの木の生い茂る緩やかな丘に囲まれています。そこに住む家族にとっては人知れぬ静かな聖域とも言える場所でした。素朴な美しい景観と村人の温かい心のおかげで、村を去る人はほとんどなく、たいていのが、血筋にせよ婚姻にせよ、しんせき親戚としてつながっていました。



そのとき見ていた記録は、わたしにとっては特別な意味があるものでした。それは、祖父のアンドレス・サンチェスが、1930年代のスペイン内戦中に必死で守ったものなのです。わたしは子供のころからその話を聞いて育ったものですが、その話と自分とのつながりをはっきりと自覚したのは、ようやく自分で記録の探求を始めたときのことです。わたしは祖父を直接知っていたわけではありませんが、祖父の守った記録にある名前や日付を読み進めているうちに、祖父の存在を身近に感じるようになってきたのです。まるで祖父と一緒に一つ一つのチームを組んでいるような気持ちになり、とうとうわたしは、自分の先祖の中から、1万人以上もの人名を神殿の儀式のために提出できるようになったのです。

しかしながら、その数年間ほとんど毎日そうだったのですが、その日も、娘のことや娘の行く末を考えて、わたしは苦痛と悲しみにさいなまれていました。わたしは失意のどん底から天の御父を呼び求めています。娘があり得ないような夢物語に踊らされることのないように助けてくださいと願い続けていたのです。わたしは、このような理由で胸をつまらせながら、先祖の救いのために神殿の儀式用の名前提出については忠実に続けていましたが、自分の娘を救うことについては、ほとんど無力でした。そんなとき、娘を救いたいと必死で頑張っているわたしに協力しようとする先祖の力を感じました。マイクロフィルム読み取り機に向かって、教会記録から貴重な名前や日付を抄出するという作業に没頭しながら、わたしはいくばくかの平安を感じたのです。

確信に満ちた選択

祖父のアンドレスは立派な人物で、村の指導者でもありました。5人の子供に恵まれ、決して裕福とは言えないものの、経営する運送業も順調で、資産家の端くれとして数えられていました。

しかし、時代はスペイン史上でも混乱を極めた時代でした。スペイン内戦は国土の大半に飢えと破壊をもたらしていました。人々の間でも、政治の話題はだれにとっても最大の関心事となりました。ヨーロッパ史上どの時代を振り返ってみても、この静かな漁村だけは戦火を免れてきていました。第一次世界大戦のときでさえ無傷だったのです。しかし、このときばかりは違っていました。敵は迫って来ます。アンドレスは、生まれたばかりの子供をリベルシア、すなわち「自由」と名付けました。それは彼の将来への確信の表れでした。

国土の至る所で、侵略軍は教会を焼き払い、教会の指導者を殺し、反対派を根絶しようとしてきました。これに抵抗して、アンドレスと数人の隣人たちは、小さな村の教会の礼拝時の神聖な道具や記録をひそかに隠したのです。もし見つければ、アンドレス自身にとっても家族にとっても、悲惨な結果になることを承知のうえでのことでした。彼は自ら決断を下し、確信をもって決断を実行に移したのです。

やがて、敵軍が村にも侵略して来ます。アンドレス・サンチェスという名前が探り出され、彼は拘留の憂き目に遭います。小さな村の教会で行ったことのために、拷問を受け、資産を没収されてしまいました。事業も財産も没収され、家族は物乞い同然の貧しさに追いやられたのでした。アンドレスは、牢獄の劣悪な環境で健康をむしばまれ、間もなく結核に

祖父の
アンドレス・
サンチェスの
働きのおかげで、
1930年代の
スペイン内戦の間、
村の教会の
家族の記録が
守られました。

かかります。そして、釈放されて家族のもとに戻った2週間後には、帰らぬ人となったのです。

喜んで払う犠牲

主は、一人の人物と一握りの勇敢な友人が主を愛し、記録を守るために自らの命まで犠牲にささげたことを決してお忘れになりませんでした。それから何年かして、その記録は、末日聖徒イエス・キリスト教会の手でマイクロフィルム化されることになったのです。

今わたしは、ユタ州ソルトレーク・シティーにある家族歴史図書館の広く薄暗い部屋にいて、そのマイクロフィルムのコピーを読んでいます。自分にとってはなじみの薄い名前を調べるといふ退屈な作業を続けているうちに、心はなぜかこの人々に引かれていきます。頭の中でも心の中でも、この人たちは同じ家族の仲間なのだという気持ちが芽生えてきました。

夫とわたしは、祖父の模範から靈感を受け、勇気と希望を得てきました。祖父は、将来の人々のために、喜んで犠牲をささげてくれました。そして時代が変わり、今度は、過去の世代の人々が一緒になって娘を助けようとしてくれている、その力をわたしたちは感じたのです。

1999年3月、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長はスペイン・マドリード神殿を奉獻しました。同じ週に、わたしは、最初の6,000人の名前をユタ州バウンティフル神殿の神殿ファイルに提出しました。できるだけ完全な形で、家族全体の情報をそろえての提出でした。さらにまた、次の4,000人分の名前を提出する用意もできました。こうして、この集落全体の人々の名前が神殿の儀式を待つことになったのです。スペインの小さな村に住んだ、信仰深い人々への救いの業の始まりでした。

二重のお祝い

先祖の神殿の儀式が始まると、夫もわたしも、天が娘のために涙を流し、一緒に祈ってくれているような気持ちがしてきました。やがて、娘も、自分の生活を変えなければいけない、長い間失っていた平安をもう一度見つけ出さなければならぬ時が来たと感じるようになったのです。娘は苦しい悔い改めの道を歩み始めました。そして、次第に娘の顔に光が戻って来たのです。長い年月を経てようやく、わたしたちが心の底からささげたりつくような祈りがこたえられ始めました。娘は、愛する天の御父から受ける癒しの過程に喜びを見いだしていました。天の御父はあらゆる子供たちを心にかけておられるのです。

ある美しい夕べに、わたしはバウンティフル神殿にいました。目は喜びの涙で潤んでいます。隣にはあの娘が、自分自身のエンダウメントを受け、ふさわしい若者と結び固めを受けるために一緒にいるのです。

しかし、物語はそこで終わりではありませんでした。家族や友人たちが、この輝かしい儀式に参列するために集まって来ると、デスクにいた姉妹がセッションを受ける人たちに身代わりの名前を渡し始めました。何という巡り合わせでしょうか。その名前は、わたしが神殿ファイルとして提出した数多くの名前の一部だったのです。まさに、二重のお祝いでした。わたしたちは、スペイン人の先祖のために奉仕できることを喜び合いました。同時に、娘が主の宮でこの世においても永遠にわたっても夫と結び固められることを、先祖も一緒に喜んでくれているに違いないと思ったのです。その瞬間、わたしは過去と現在を一つにする永遠の家族の輪を実感しました。わたしたちは一つなのです。■

マリー・サンチェスは、ユタ州バウンティフル東ステーク、バウンティフル第11ワードの会員です。

神殿の中で、
わたしたちは、
スペイン人の
先祖のために
身代わりとして
奉仕できることを
喜び合い、
また同時に、
娘が福音に
立ち返ったことを
喜び合いました。





わたしの聖文の 秘密

この秘密は口では十分に言い表せませんが、
あなた自身で発見することができます。

メリッサ・ドマイヤー・アイナ

忠 実な教会員が受ける大きな祝福の中に、救い主から得られる平安があります。わたしは、聖文を読んでいてそのような平安を感じたことが何度もあります。

今までモルモン書を読み通す目標を何度も立てました。何度やっても、だんだん興味を失い、また始めからやり直す……そんなことの繰り返しでした。大学1年生になるまで、ほんとうの意味で「言葉を試し」たことはありませんでした(アルマ32:27参照)。あるときわたしは、週日に毎朝6時半に起きて30分間聖文を読むことを始めました。読む時間を決めていたので、落ち着いて読むことができました。

そのうち、聖文を読むことが楽しみになりました。読んだ後は喜びと平安を感じました。一日中、何かが違いました。心の中で祈り続けることがもっと楽にできるようになり、前より御霊をもっと近くに感じるようになりました。心配事がなくなったわけではありませんが、確かに毎日をもっと楽しくなりました。

聖文に対する証^{あかし}が大きくなりつつあると感じたのはそのころでした。聖文を読むという戒めに従うことで、これほど多くの祝福があるとは思ってもみませんでした。まるで、聖文を読む人だけにしか知らされない秘密を知ったかのような気がしました。

アルマは証を得る方法を次のように教えています。

「もしあなたが目を覚まし、能力を尽くしてわたしの言葉を試し、ごくわずかな信仰でも働かせようとするならば、たとえ信じようとする望みを持つだけでもよい。わたしの言葉の一部分でも受け入れることができるほどの信仰になるまで、その望みを育ててゆけ。」(アルマ32:27)

自分で試してみるまでなぜ聖文を読むように命じられているのか真に理解していませんでしたが、幸いわたしにはわずかな信仰——毎日短い時間聖文を読むのに必要な信仰がありました。そして実践することによって、アルマが教えたとおりに証を得ることができたのです。

どんなに言葉を尽くしても、聖文を読むことから得られる祝福の秘密を人に説明することはできません。わたしも自分で試してみるまでは分かりませんでした。でももし聖文を読めば、試練に直面しているときでも祝福として必ず平安と幸せが得られることを約束します。ぜひ試してみてください。■

メリッサ・ドマイヤー・アイナはカリフォルニア州バレンシアステーク、ニューホール第1ワードの会員です。

御言葉が 目の前にあるので



救い主のもとに
行けるように
努力を続けるとき、
常に熱心に
「キリストの言葉を
よく味わう」なら、
わたしたちは強められ
栄えるでしょう。

聖文研究に5つの原則を
応用すれば、救い主について
よく学べるだけでなく、
さらに救い主のようになれます。

十二使徒定員会
デビッド・A・ベドナー

この20年間、ベドナー姉妹とわたしは数万人の末日聖徒の若人と会い、回復された福音の教義について語り合っ、毎日の生活の中で正しい原則に従って生きる祝福についてともに考えてきました。大人数の集会でも、こぢんまりした集まりのときも、いつも若者たちの質問に答える時間を持つようにしてきました。そして彼らの福音に関する知識の豊富さと質問の質の高さにいつも深い感銘を受けたものです。

そんなとき何度となく繰り返し質問されたことが二つありました。それは、聖文を研究することがなぜそれほど大切なのか、そして聖文の研究をもっと効果的なものとし、そこから教化されるにはどうすればよいかという質問です。

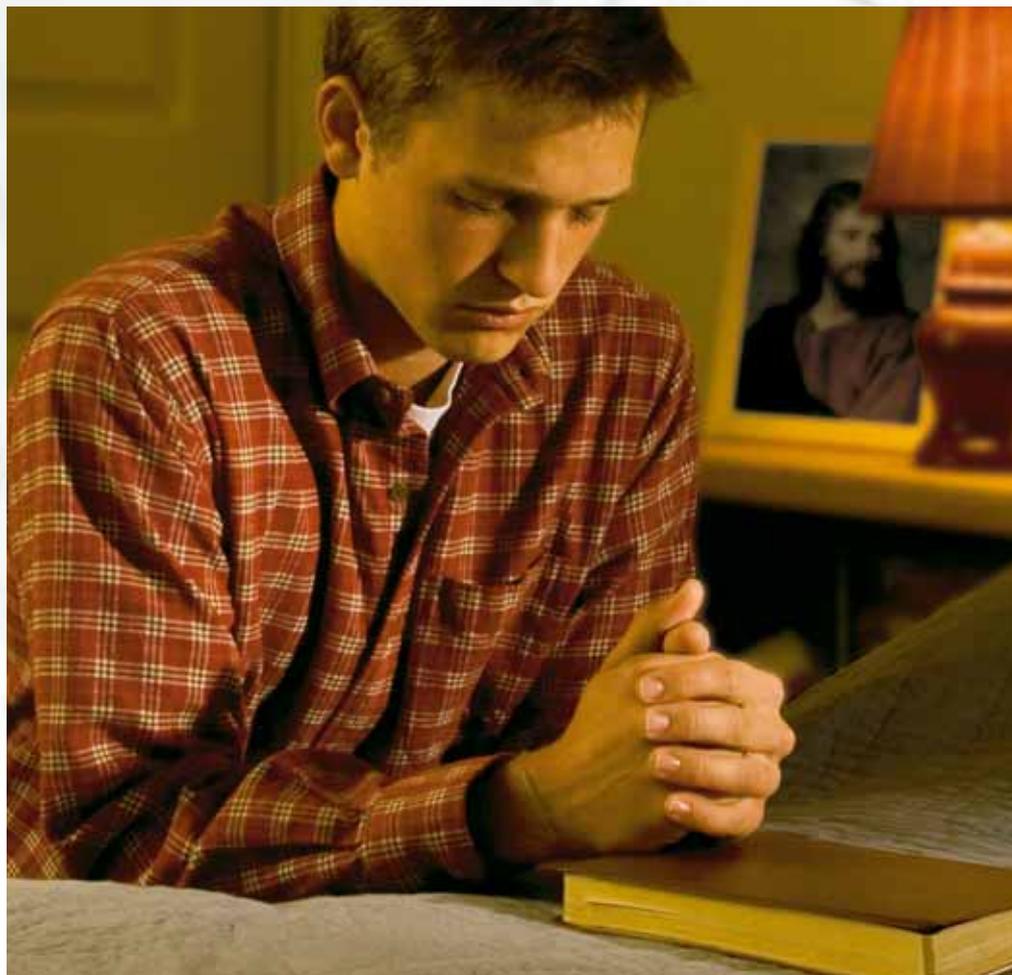
二つとも、わたしたち一人一人が真剣に考えるべき重要な質問です。

聖文の研究はなぜそれほど大切なのでしょうか

主は、御自身の業と栄光は「人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと」であると言われました(モーセ1:39)。この偉大な業が達成できるように、主は御自身の教会を立てられたのです。「キリストのもとに来[て]」(教義と聖約20:59)、「キリストによって完全にな」(モロナイ10:32)ように「すべての人を招」く(教義と聖約20:59)ことが、末日聖徒イエス・キリスト教会の重要な使命になっているのはそのためです。そして、救い主の弟子として、また主の教会の会員として学び、知り、行う事柄はすべて、わたしたちがこの天の招きに積極的にこたえられるようになるためのものなのです。

キリストのもとに行くというのは、はっきりした始めや終わりがある一つの出来事ではありません。むしろ、生涯を通して進み、深めていくものです。この過程の第一段階として、わたしたちは確実にイエスとその生涯や教えと務めについて学び、イエスについて知らなければなりません。しかし、ほんとうの意味で主のもとに行くには、いつも従順で、思いと動機、言葉、行いにおいてイエスのようになる努力が必要です。主の弟子となる細い道を「力強く進」むとき(2ニーファイ31:20)、わたしたちは主が自分に向かって近づいてくださるという期待を





霊にかかわる
事柄は、
御霊の影響を
通してのみ
学ぶことができます。
真剣に
聖文を研究するとき、
その度に、始めに
祈るだけでなく、
研究している間も
理解を願い求め
と助けになります。

もって主に近づき、主を見いだせるという希望をもって熱心に主を求め、与えられるという確信をもって求め、開かれると予期しながら扉をたたくことができます(教義と聖約88:63参照)。

主に近づくと同時に、主イエス・キリストについて学び、さらに主のようになる最善の方法の一つが、主から与えられた聖文を研究し続けること、つまり、毎日「キリストの言葉をよく味わう」ことなのです(2ニーファイ32:3)。

読むではなく研究するという言葉を使ったことに注目してください。研究し、よく味わうという言葉には、軽く読むとかちょっと調べるといった読み方とは大きく違う、焦点を合わせて集中することが含まれます。研究し、よく味わい、それから心を込めて祈り、学んだ真理や原則を確固として実行するなら、個人的で霊的な決意ができ、証の明るい光を得るのです。福音の真理を研究し、学び、祈り、正しく実践する、これはすべて救い主のもとに行くうえで鍵とな

る要素なのです。

わたしにとって聖文は、いつもキリストのもとに行くためにきわめて重要なものです。わたしの祝福師の祝福には「あらゆる機会を利用して聖文を研究しなさい」という強い勧告の言葉があり、よくその言葉が心に浮かんできます。その一言のために、何十年も福音学習に焦点を合わせてきました。そしてこの勧告に従えば靈感と導きを与えられるという約束が何度も成就するのを経験したのです。

また、ハロルド・B・リー大管長(1899-1973年)からも聖文を研究し、使うことについて大きな影響を受けました。1971年、わたしはソルトレーク・シティーで宣教師のため

の最初の訓練を受けていました。300人の長老と姉妹がソルトレーク神殿のアッセンブリールームに集まり、リー大管長から直接指導を受ける機会に恵まれました。そのような神聖な場所で主の特別な証人である大管長会の一員(訳注——当時は副管長であった)から教えを受けたことは、わたしにとって最も記憶に残る経験となりました。

指導法はとても簡単なものでした。リー副管長はわたしたちに福音について何でも質問するように言いました。どの質問にも一つ残らず聖文を引用して答えるリー副管長を見て覚えた感動は、とても忘れられるものではありません。そして、そのときそのソルトレーク神殿の中で、わたしは決心したのです。リー副管長ほど精通することはできないにしても、聖文を研究して、リー副管長の模範に従って聖文を用いて教えようと。当時は経験の浅く19歳で伝道に出たばかりでしたが、その決意のおかげで、言

葉では表せないほど豊かな祝福を数多く受けてきました。

次の教えの中で、神を知り神に頼るようになるために中心的な役割を果たすものとして、聖文が挙げられていることに注目してください。

「聖文を調べなさい。わたしたちが公にしている啓示を調べ、御子イエス・キリストの名によって、真理が明らかにされるように天の御父に求めなさい。一切疑うことなく、神の栄光にひたすら目を向けながらそうするならば、主はあなたがたに聖霊の力をもってこたえてくださることでしょう。そして、ほかの人によらず、自分自身で知ることができるでしょう。それによって、神に関する知識について人に頼ることはなくなり、また、何の疑いの余地もなくなることでしょう。それは、人は自分自身を造られた御方から教えを授けられるとき、その御方が自分たちを救ってくださることを知るからです。」¹

わたしたちは皆、人に頼らずに聖霊の力によって霊的な証を受けて、イエスが確かに救い主であり贖い主であられると「自分自身で知る」ことができます。

本質的に、聖文とは主の声を、それも耳で聞くのではなく、むしろ心を感じる声を書き記した「記録」です。そして書き記されている神の言葉の内容を研究して、そこから御霊を感じるとき、わたしたちは読んでいた言葉から主の声を聞けるようになり、そのような方法を通して聖霊によって御言葉が与えられると理解できるようになるのです。教義と聖約第18章34節から36節には次のように説明されています。

「これらの言葉は人々から、人間から出ているのではなく、わたしから出ているのである。それゆえ、あなたがたは、これらの言葉がわたしから出ているものであって、人間から出ているものではないことを証しなければならぬ。

これらの言葉をあなたがたに語っているのは、わたしの声である。これらの言葉は、わたしの御霊によってあなたがたに与えられているからである。そして、わたしの力によって、あなたがたはこれらの言葉を互いに

読み合うことができる。わたしの力によらなければ、あなたがたはこれらの言葉を得ることはできない。

そのために、あなたがたは、わたしの声を聞いたこと、そしてわたしの言葉を知っていることを証できるのである。」

わたしたち一人一人が繰り返し聖文を学び、そこから主の声を聞いて感じる経験をし、それに確信が持てるようになることは、非常に重要です。日ごろから聖文を研究すれば、「見よ、キリストの言葉はあなたがたがなすべきことをすべて告げる」のです(2ニーファイ32:3)。

キリストのもとに行く過程にあって不可欠なのは、主の声を聞いてそれを感じ取り、御言葉を^{みことば}知ることです。救い主はこう教えられました。「わたしの羊はわたしの声〔を聞く〕。

わたしは彼らを知っており、彼らはわたしについて来る。」(ヨハネ10:27, 強調付加) このように、主に正しくついて行く前に、まず主の声を聞かなければなりません。「わたしの選民はわたしの声を聴き、その心をかたくなにしないから」です(教義と聖約29:7)。わたしたちは確かに主から教えを受け、従うことができます。聞き、感じ、従うという霊的な能力は、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員すべてに与えられています。そして、その能力は熱心に聖文を研究することによって高められるのです。

聖文の研究はなぜそれほど大切なのでしょう。それは、心を込めて聖文を研究すれば、わたしたちがキリストのもとに行く道を進み、主のようになる助けになるからです。毎日聖文をよく味わうと、福音の真理についての証を自分で得て、主の声に聞き従うことができるようになります。

毎 日決まった
時間帯に、
それも
できれば
決まった場所で
研究することによって、
聖文を
ずっと効果的に
調べられるように
なります。

**聖文の研究をもっと効果的なものとし、
そこから教化されるにはどうすればよい
でしょうか**

次に紹介する5つの基本的な原則を理解し実行すれば、個人の聖文研究をもっと効果的なものとし、そこから教化されるようになるでしょう。

原則1——理解できるように祈り、聖霊の助けを求める 霊にかかわる事柄は、御霊の影響を通し





てのみ学ぶことができます。真剣に聖文を研究するとき、その度に謙遜^{けんそん}で心のこもった祈りで始めて、聖霊の助けがあるように御子の名によって天の御父に願い求めれば、学び、理解し、思い出す力は大きく伸びるでしょう。始めに祈るだけではなく、研究している間も理解を願い求めると助けになります。また、わたしが個人的に助けになったと感じているのは、聖文研究が終わるときに感謝の祈りをささげることです。

原則2—努力する 福音の知識と理解は、聖文を熱心に研究し、聖霊から直接教えを受けることで与えられます。聖文の隠れた宝が納めてある金庫の扉を開ける鍵^{かぎ}の一つは、ひたすら努力すること、つまり、単純で昔ながらの、熱心な努力なのです。農家の人は、春にきちんと種をまき、夏に草を取り肥料をやって育てるといった懸命の努力をしなければ、秋になっても収穫は期待できません。それと同じように、定期的にしかも熱心に研究するという代価も払わないで、聖文から多くを学ぶのを期待することはできないでしょう。わたしたちが生活の中で求める聖文の宝は、人から借りることも譲ってもらうこともできません。努力の原則を実行して、一人一人自分で金庫の扉の鍵を開けられるようになるしかないのです。

原則3—継続する 目が回るように忙しい毎を送るわたしたちには、時間を見つけて有意義な聖文研究をするという心構えがあるとか、単にそうした「願望がある」というだけでは不十分です。わたしの経験では、毎日決まった時間帯に、それもできれば決まった場所で研究することによって、ずっと効果的に聖文を調べ、研究できるようになります。

原則4—深く考える 「深く考える」という言葉には、よく考える、つくづくと考える、思い巡らす、または熟考するという意味があります。ですから、聖文を深く考えるとは、標準聖典の中にある真理や出来事や教訓を、敬虔^{けいけん}に思い巡らすことにほかならないのです。深く考える過程には時間が必要で、無理に進めようとしたり、気がせいっていたり、大急ぎでしようとしたりしてはできないことです。

預言者ジョセフ・スミスは聖文を深く考え思い巡らすことについて、大切な指針を残しています。彼はこう教えました。「わたしは聖文を理解するための鍵を持っています。わたしは、その答えを導き出した問いは何であったか、またイエス

**聖文の
隠れた宝が
納めてある
金庫の扉を開ける
鍵の一つは、
ひたすら努力すること、
つまり、
単純で昔ながらの、
熱心な努力なのです。**

がそのたとえを用いられたのはなぜかを考えることにしています。』² このように、ある啓示、たとえ、または出来事の前どんな質問があったのか理解すれば、聖文をもっと深く理解する助けとなるでしょう。

エズラ・タフト・ベンソン大管長(1899–1994年)も聖文、特にモルモン書を研究し深く考えるときに、これと似た方法を取るように強調しました。

「[モルモン書の執筆者たち]がわたしたちの時代を見、わたしたちのためになることを選んでくれたとしたならば、なおさらモルモン書を学ぶ必要があるのではないのでしょうか。『この事柄を記録に残すようモルモン(モロナイあるいはアルマ)に主が靈感を与えられたのはなぜだろうか、このことから現代の生活への教訓として何を学べるのだろうか』と絶えず自問する必要があります。』³

このベンソン大管長の教えに従えば、「すべての聖文を自分たちに当てはめて、それが自分たちの利益となり、知識となるように」することを勧めたニーファイの言葉に従う助けにもなります(1ニーファイ19:23)。このように、研究した事柄について自問し、深く考えることによって、靈感と聖霊の助けが与えられるのです。

原則5—心に浮かんだ印象や考えや思いを書き留める 十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老は、霊的な印象や考えを書き留めることの大切さを繰り返し強調しています。

「大切な印象を書き留める習慣を身に付けるなら、さらに御霊を受けている自分に気づくことでしょう。皆さんが得るそれらの知識は人生のあらゆる場面で活用することができます。昼も夜もどこにいても何をしているときも、御霊の導きに気づいて、それにこたえる心構えを常に持ってください。助けを与えられたらそのことに感謝して、従ってください。これを習慣化することによって、御霊によって学ぶ能力を高めることができます。それにより、主に導かれるままに生活することができ、さらに、皆さんが潜在的に持っているほかの能力をも引き出すことができるでしょう。』⁴

聖文を研究するとき、学んだことや考えたこと、感じたことを書き留めるのは深く考える方法の一つであり、継続して教えが授けられるように聖霊を招く強力な方法となります。

聖文が簡単に手に入る時代に生きるわたしたちは恵まれています。決して聖文を軽んじたり、むとんちゃくになったり



することがないように祈ります。ベニヤミン王が息子たちに教えたことを思い出し、聖文すべてに応用すべきです。

「息子たちよ、わたしはあなたがたに言う。これらのもの〔聖文〕が神の御手によって書き継がれ、そして残されたのは、わたしたちがこれを読んで神の奥義を理解し、神の戒めを常に目の前に置いておけるようにするためであって、もしこれらのものがなかったならば、わたしたちの先祖でさえも不信仰に陥っていたであろう。……

おお、息子たちよ、わたしが望むのは、これらの言葉が真実であり、これらの記録も真実であることを覚えておいてほしいということである。……これが今わたしの目の前にあるので、これが確かであることが分かる。

さて、息子たちよ、あなたがたはこれらの記録を努めて丁寧に調べることがを忘れず、それによって益を得るようにしてほしい。また、神の戒めを守り、主がわたしたちの先祖に立てられた約束どおりに、この地で栄えることができるよう

にしてほしい。〕(モーサヤ1:5-7, 強調付加)

聖文が真実であり、神の言葉が記されたものであることを証します。救い主のもとに行けるように努力を続けるとき、常に熱心に「キリストの言葉をよく味わう」なら、わたしたちは強められ栄えることでしょう。御言葉が目の前にあるので、確かにわたしたちは恵まれているのです。■

注

1. "To the Honorable Men of the World," *The Evening and the Morning Star*, 1832年8月22日付, 強調付加
2. *History of the Church*, 第5巻, 261
3. 「わたしたちの宗教のかなめ石」『聖徒の道』1992年8月号, 7参照
4. 「知識と強さを得て賢明に用いる」『リアホナ』2002年8月号, 14

聖文を
研究するとき、
学んだことや
考えたこと、
感じたことを
書き留めるのは、
深く考える方法
の一つであり、
継続して教えが
授けられるように
聖霊を招く
強力な方法となります。



真理を見

アーター・トマシェフスキーは神に真理を示してくださるようお願い求めました。しかしその答えを受けたことによって、真理との取り組みが始まりました。

ドン・L・サール

教会機関誌

アーター・トマシェフスキーは、いざというときには身を守ることができます。というのも、17歳のとき柔術で自国ポーランドのチャンピオンになったことがあるからです。しかし最も賢明な方法は、どんなときもまずは平和的な解決を求めることだと信じています。人生で最

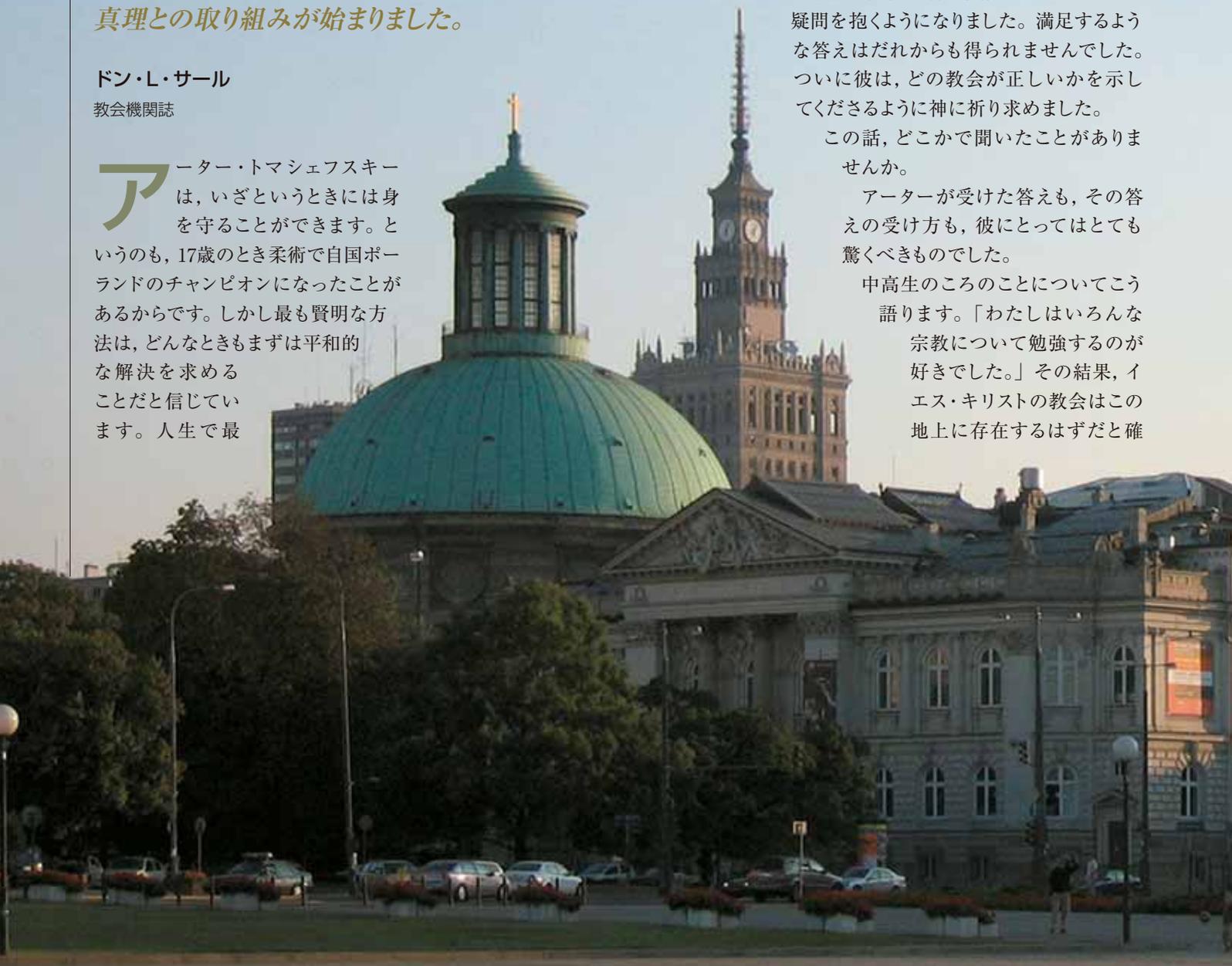
も大きな闘いとなった、真理を探し求める闘いにおいても、彼はそのような方法で勝利しました。

幼いころ、アーターは聖書を学び、神と自分との関係や神の真実の教会について疑問を抱くようになりました。満足するような答えはだれからも得られませんでした。ついに彼は、どの教会が正しいかを示してくださるよう神に祈り求めました。

この話、どこかで聞いたことがありませんか。

アーターが受けた答えも、その答えの受け方も、彼にとってはとても驚くべきものでした。

中高生のころのことについてこう語ります。「わたしはいろんな宗教について勉強するのが好きでした。」その結果、イエス・キリストの教会はこの地上に存在するはずだと確



い だ す 闘 い

信するようになりました。しかし、聖書にのっとった教会は見つからず、神はほんとうに存在するのだろうかという疑問を抱いた時期もありました。しかし、彼の中に息づいていた信仰により疑いはなくなりました。もしも答えを与えることができる人がいるとしたら、それは神しかおられないと分かったのです。そして18歳のとき、アーターは祈り、真実の教会に導いてくださるようにと、はっきりとした目的をもって願い求めました。

それから間もなく、おばの家に行ったとき、本棚にほこりをかぶった1冊の本を見つけました。背表紙には『モルモン書』と書かれていました。おばさんが姉妹宣教師からもらったまま、すっかり忘れていた本でした。

アーターは読もうか読むまいか悩みながら、手に取っては戻し、取っては戻し、3回繰り返しました。「いや、ぼくは読まない。聖書だけを信じているのだから。でも、ここには『イエス・キリストについて

のもう一つの証』^{あかし}と書いてある。だけど、巻頭のジョセフ・スミスのお話はあまりに非現実的すぎる。とはいえ、もしもほんとうだったらどうしよう。しかし、最初の20ページに書かれていることは、聞いたこともないことばかりだ。」

それでも、そのときに読んだ事柄は、その週ずっと頭から離れませんでした。続きからもう一度読んでみようとおばさんの家にまた行ってみると、本はもうありませんでした。

下——ポーランド、ワルシャワの通りを歩くアーター・トマシェフスキー長老と、同僚のリッキー・ディアス長老。



それからアーターが自分のモルモン書を手に入れるまでには、しばらく時間がかかりました。

彼はカトピーツェの通りで、自分から宣教師に話しかけました。約束に反してすぐに電話がなかったので(宣教師になったトマシェフスキー長老は、決してこのような間違いをしないようにしています)、自分から彼らを捜そうと思い、ある日曜日の朝、もらったちらしを頼りに集会所を訪ねてみました。

その日はちょうど断食日曜日で、会員たちの証を聞いていると、自分が初めてモルモン書を読んだときと同じ穏やかでしかもはっきりとしたものを感じました。その気持ちがあまりに強かったので、自分も前に立ってこの書物が真実であると証したいと思ったほどです。でも、そんなことをしてもよいかどうか分からなかったので、やめておきました。

ついに宣教師からモルモン書をもらい、読んで真実かどうか答えを得るために祈っていただけますかと厳粛な面持ちで言われたとき、アーターは思わず笑ってしまいました。神から答えを受けることはもう分かっていたからです。

彼はモルモン書を読み、祈りました。そのとき受けた答えはあまりに強く、それはただの気持ちではなく、まるで「まばゆい光が注がれた」かのような感じでした。こうして、すでに聖書から悟っていた真理がさらに明らかにされたのです。彼はそこでもう一度声を立てて笑ってしまいました。イエス・キリストの教会についての答えが、ほんとうにこれほど「明快で簡単な」ものなのだろうかと思ったからです。もっと複雑で分かりにくいものだろうと考えていた彼は、もう一度確かめるために祈りました。そして再び、同じように強い答えを受け、神の真理は複雑なものではなく、簡単なものであるという確信を得たのです。

「それが真理であると分かって、喜び勇んで家に帰りました」と彼は語ります。でも家族のだれも、その喜びを共にしようとはしてくれませんでした。母と二人の弟はまるで興味を示しませんでしたし、父はわたしがこの教会に入ることに反対でした。アーターは2002年にバプテスマを受けましたが、支部の会員を除けば、友達や知人の中にも彼を理解し支えてくれる人はいませんでした。

ポーランドは昔から宗教が深く根を下ろしている国です。なぜ彼が、国民のほとんどが信じる宗教を捨てようとするのか、だれも理解できませんでした(訳注——ポーランド国民の90パーセント以上がカトリック教徒とされる)。それでもア-



**トマシェフスキー長老の弟、
パトリック・トマシェフスキーは
モルモン書を読み、真実かどうかを
自分で知ってほしいという
兄のチャレンジを受け入れました。**

ターは、両親から受けた教えやその模範は、真理を見いだすうえで貴重な備えになったと言います。「両親なりに自分たちの信念に基づいて教えてくれたことに感謝しています。」

独りで福音に従って生活してはいても、信仰は弱まりませんでした。伝道に出る決心をしてからは、柔術の練習も競技会もあきらめました。どちらも子供のころから生活の一部になるほど大好きでしたが、働いて伝道資金をためるには、やめなければならなかったのです。柔術は彼にとって、自分を表現する芸術のようなものだったそうです。「練習中は、絵を描く画家のような気分でした。」しかし、働き始めてからは、練習する時間がありませんでした。

伝道に出るために故郷マイストピーツェを離れるとき、トマシェフスキー長老は、弟のパトリックにあるチャレンジをしました。弟もやはり熱心に柔術を練習していました。「ほくが自分の大好きなスポーツをあ

きらめてまで、こんなことをしようとしているのはなぜか知りたかったら、モルモン書を読んで、祈ってみてくれないか。」

トマシェフスキー長老は、柔術を訓練する中で培われた特質は伝道地でも役立つと言います。忍耐と謙遜、熱心に働く能力などです。

伝道していて、いちばん好きなことは何でしょう。

「とことん疲れ切って、精根尽き果て、自分はそんなに信仰の強い人間じゃないと感じるようなとき、それでも頑張ってドアをノックすると善い人に会える、ということがよくあります。」福音を聞きたいという人を見つけると、とても興奮して眠れないこともあります。

宣教師になって、最もすばらしかった日はいつだったでしょうか。

それは、弟が自分のチャレンジにこたえてモルモン書を読み、祈ったことを知った日でした。パトリック・トマシェフスキーもまた証を得て、2004年8月にバプテスマを受けました。

今やトマシェフスキー家には、福音を分かち合える人がいるのです。■



一人一人の姉妹の 神聖な価値を強調する



以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証^{あかし}を伝え、あなたが教える人々にも同様に分かち合うように勤めてください。

扶助協会に所属する祝福——扶助協会では、姉妹たち一人一人が天の御父から愛されている霊の娘であり、それぞれに神聖な特質があり、永遠の命を受け継ぐ可能性があることを学びます。

自分の持つ神聖な特質について、何を知っているでしょうか。

大管長会と十二使徒定員会——「すべての人は、男性も女性も、神の形に創造されています。人は皆、天の両親から愛されている霊の息子、娘です。したがって、人は皆、神の属性と神聖な行く末を受け継いでいます。……前世で、霊の息子、娘たちは神を知っていて、永遠の御父として神を礼拝し、神の計画を受け入れました。その計画によって、神の子供たちは肉体を得ることができ、また、完成に向かって進歩して、最終的に永遠の命を受け継ぐ者としての神聖な行く末を実現するために、地上での経験を得られるようになったのです。」(「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号, 49)

中央扶助協会会長 ポニー・D・パーキン——「扶助協会の一員となることにより、わたしは、より良い妻、母親、そして神の娘となるために更新さ

れ、強められ、決意を深めてきました。心は福音への理解で満たされ、救い主と救い主がわたしのためにくださったことへの愛で満たされてきました。」(「扶助協会は、皆さんの生活をどのように祝福してきたでしょうか」『リアホナ』2004年11月号, 35)

ローマ人への手紙8:16-17——「御霊^{みたま}みずから、わたしたちの霊と共に、わたしたちが神の子であることをあかしして下さる。もし子であれば、相続人でもある。神の相続人であって、……キリストと共同の相続人なのである。」

大管長 スペンサー・W・キンボール (1895-1985年)——「扶助協会指導者と教師は次のことを自問しなければなりません。妻であり母親である姉妹が、母親の務めの神聖さと価値を理解するために、自分たちはどのような助けができるでしょうか。また、家庭を愛と学びの場、安住と向上の場とするためには、どのような助けができるでしょうか。……わたしたちの成功は、個人的にも教会全体としても、家庭で福音を実践することにどの程度忠実に取り組んでいるかによって決まるのです。」(「家庭で福音を実践する」『聖徒の道』1978年10月号, 156参照)

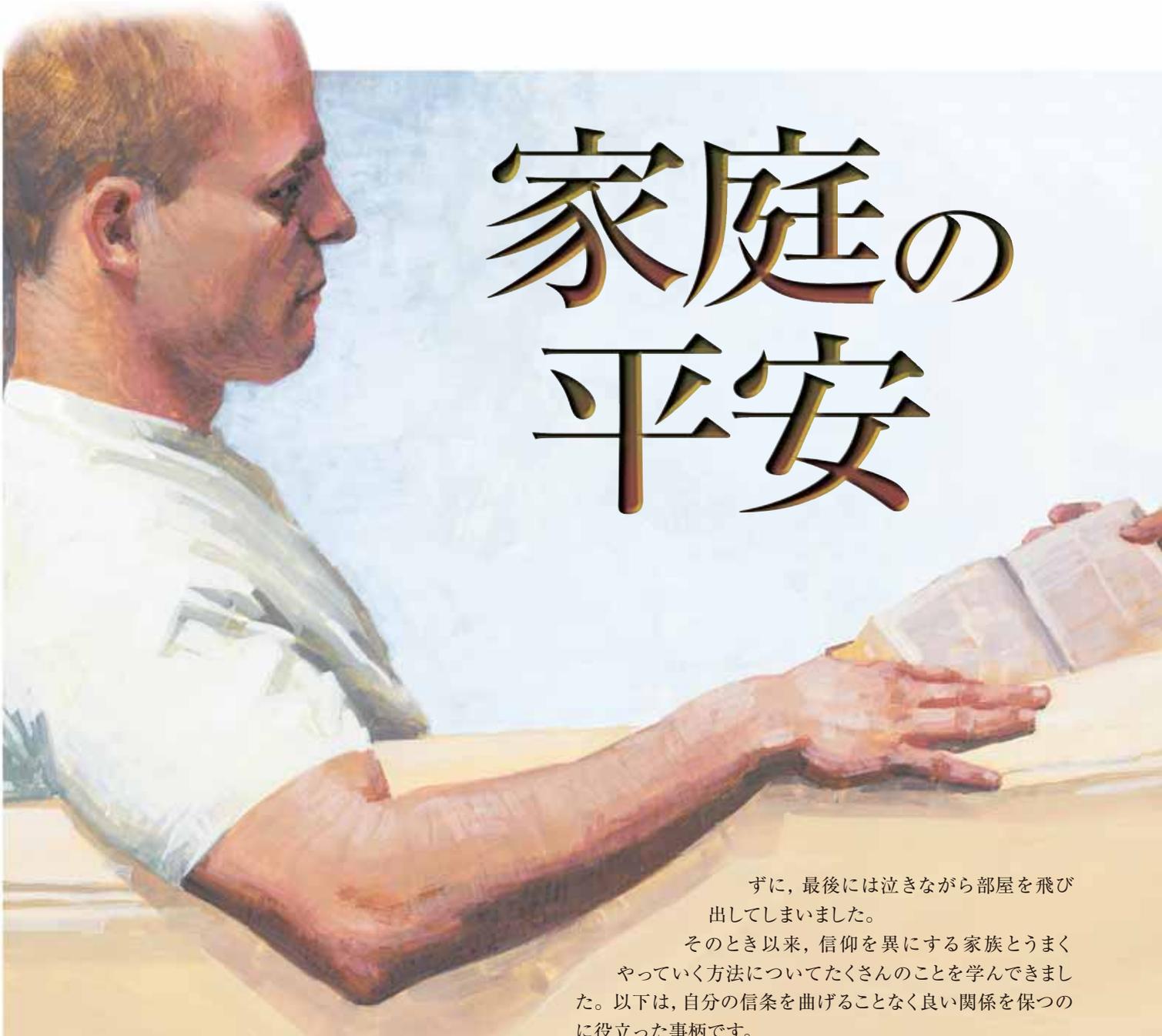
自分の持つ神聖な特質を理解すると、態度や行動はどのように変わのでしょうか。

大管長 ゴードン・B・ヒンクレ——「皆さん一人一人の内には神聖

な賜物^{たまもの}があります。天与の特質であるその賜物には、すばらしい可能性が秘められています。だれもが、この世で善を行うために、大きな力を天の御父から授かっているのです。社会の一員としてよく奉仕できるように、皆さんの頭脳と技能を訓練してください。親切で思いやり深く、人々を助けられるような力を培ってください。皆さんが受け継いでいる神聖な特質の一部である、憐れみ^{あわれみ}の心を養ってください。」(「内なる光」『聖徒の道』1995年7月号, 108参照)

第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト——「神の娘であるとの確信が、自分は価値ある存在であるという安心感を与えてくれるのです。つまり、キリストの癒し^{いよ}の力によって得た強さが、信仰と安らぎをもって心痛やチャレンジに立ち向かう助けを与えてくれるのです。……未婚、既婚を問わず、女性は主体性を持ち、自分が役に立ち、価値ある必要な存在であることを感じることができますし、またそうならなければなりません。人のために、ほかのだれにもできないことを自分ではできるのだと思う必要があります。」(「神の娘とは何か」『リアホナ』2000年1月号, 122)





家庭の 平安

兄と信仰の違いについて口論になりました。
わたしはようやく、相手を傷つけずに
異なる意見を言う方法を学びました。

匿名

12歳のときには、教会に対する自分の信条を擁護する日があつて来たとは、思ってもいませんでした。そう言うのも、住んでいた地域の大半の人は末日聖徒で、知人のほとんどが同じ信仰を持っていたからです。軍役から休暇で帰っていた兄と激しい口論になったときには非常に驚きました。わたしはどう対処したらいいのか分から

ずに、最後には泣きながら部屋を飛び出してしまいました。

そのとき以来、信仰を異にする家族とうまくやっていく方法についてたくさんのことを学んできました。以下は、自分の信条を曲げることなく良い関係を保つのに役立つ事柄です。

1. 礼儀を忘れない。 家族が宗教に対してどのような考えを持っていようとも、親切と愛をもって接し、仕え、語り合い、家族の話し合いや決定に参加してもらうことが大切です。

2. 家族の活動は、それが教会に関係したものであっても、家族全員に呼びかける。 何年もの間、兄は教会のあらゆる活動を拒んできました。でも今は結婚祝賀会や子供の祝福、そのほかの活動に招待してほしいと思っています。たとえ信仰が異なり、誘いを断るとしても、だれでも歓迎されていると感じたいのです。

3. 難しい質問を自分の証を強める手段とする。 教会について兄からどんなに難しい質問をされても、教えが真実であることを確信するチャンスとして生かそうと決めていました。聖文を研究し、教会の指導者や両親にたくさんの質問をして、



やがて福音の証をしっかりと築くことができました。

4. 宗教的な話題を避けない。末日聖徒にとって教会は欠かすことのできないものであるため、宗教的な話題を避けると、家族に隠し事をしているかのような印象を与えます。教会での経験を話してください。

5. 彼らの見解を理解するように努める。わたしは以前、常に兄は間違っていると考えていました。でも、兄の視点から物事を見るようになって非常に驚きました。妹の結婚式に出られなかったら、どう感じるでしょう。家族がよく使う言葉が分からなかったら、どう感じるでしょう。もしわたしが兄だったら、きっと時には否定的な態度を執ることでしょ

6. 自分の間違いに責任を取る。わたしはよく兄と言い争い、兄の信じることを批判していました。成長し、ようやく自分の過ちに気づいたとき、わたしは兄に謝りました。それ



模範の大切さ

「神から与えられたこれらの標準に対する忠誠心は、周囲の人を傷つけるものであってはなりません。

周りの人と争う必要はないのです。もし確かな道を歩み続けるなら、わたしたちの行いそのものが、自ら掲げる神の目的に必要な特質を最もよく人々に証してくれるのです。」

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

「人と争わず」

『聖徒の道』1989年11月号, 4参照

来、兄との関係はほんとうに良くなりました。自分の信じていることについて謝る必要はありません。ただ、福音の教えに添っていない行いについては謝る必要があります。

7. 争いを避ける。争いがあるところに御霊はとどまりません。御霊が去ると、学び成長する機会も去ってしまいます。

8. 信仰を異にする家族に、自分たちの信じる宗教の活動に参加するよう勧める。この教会には完全な福音があるとわたしたちは信じていますが、ほかの教会でも多くの真理が教えられています。考え方は違っても、相手の宗教的な見方は尊重しなければなりません。

家族がほかの宗教の正しく健全な活動に参加することに対して、自分たちの教会の活動に参加してほしいと思うのと同じくらい協力的であってください。■

宣言から得られる 導きと、慰めと、靈感

E・ジェフリー・ヒル

ブリガム・ヤング大学 家族生活学部 准教授

1995年9月の中央扶助協会集会で、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、大管長会と十二使徒定員会が作成した文書を読み上げました。ヒンクレー大管長はこの「家族——世界への宣言」を読む前に、次のように説明しました。「現代は混乱の時代、価値観の揺らぐ時代です。甲高い声が、時に裏打ちされた行動の規範に反旗を翻し、これだ、あれだと叫びます。……皆さんに警告したいことがあります。現在起こっていることと、これから起こることの両方に対する警告です。今の世の中には、……倫理基準や価値観に対する欺瞞が後を絶たず、じわじわと世の汚れに染めていこうとする誘惑があまりにも多いからです。」（「世の策略に対抗して立つ」『聖徒の道』1996年1月号、110、113）この宣言が発表されてから現在に至るまで、価値観は絶えず変化し、道徳は退廃し、まさにこの宣言が神の預言者によって書かれたものであることが証明されています。この記事は、宣言に記されている原則に従うことによって、逆境に遭うときでさえ家族が平安と幸福を得られるということを示しています。

19 95年9月23日は、わたしにとって人生の転機になった日です。ステーク高等評議員として中央扶助協会集会の放送を見ていたわたしは、ゴードン・B・ヒンクレー大管長の説教を通じて「家族——世界への宣言」を初めて聞きました。

最初の一言を聞くやいなや、心に光がさし込み、思いが照らされました。わたしは一心に耳を傾けました。当時わたしは家族の研究で博士号を取得したばかりでしたが、その5分間で聞いた純粋な真理は、大学院で約5年間学んだ以上のものでした。立ち上がって叫びたいほどの感動を覚えました。ヒンクレー大管長の話が終わると、この原則を家庭で実践し、世に広めたいという強い願望がわいてきました。

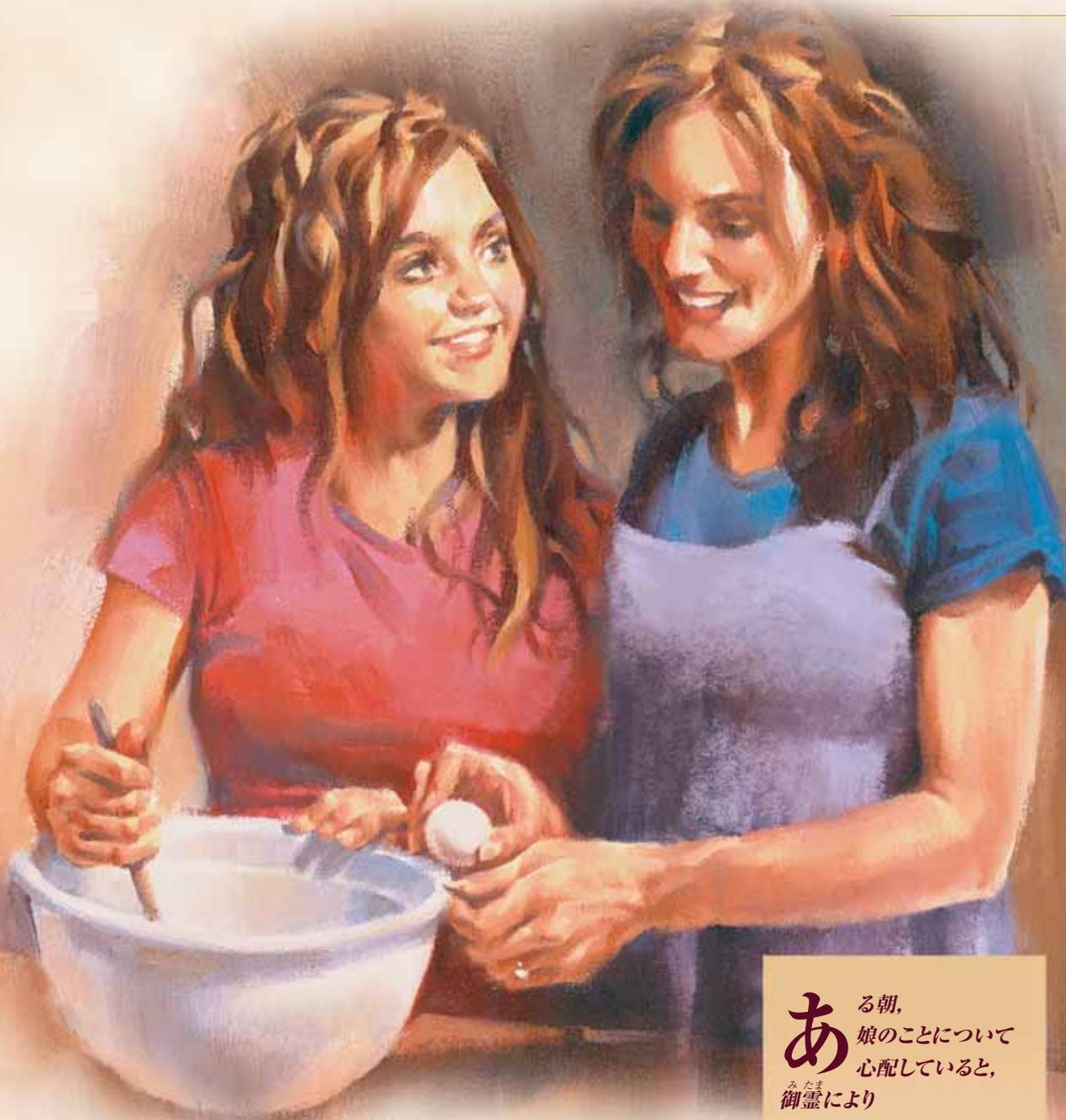
翌日から来る日も来る日も、宣言について思い巡らしました。ようやく大会特集号が手もとに届くと、宣言を何度も読み返し、祈り、考えました。完璧に理解したい、宣言を永遠に消えない人格の一部にしたいと望みました。その瞬間、宣言を暗記しなければならないという気持ちに駆られました。それ

は大変なことです。40代半ばのわたしにとって、暗記は以前のように楽なものではありません。しかし、何度も何度も促しを受けました。「宣言を暗記しなさい。宣言を暗記しなさい！宣言を暗記しなさい！」

どこへ行くにも宣言を携えて行きました。ひげをそるときも、大学へ歩いて行くときも、運動するときも暗記しました。寝る前に最後に心に浮かぶ言葉も、目覚めたときに最初に浮かぶ言葉も、宣言の言葉でした。暗記の奇跡は起こりませんでした。骨の折れる作業で、とても長い時間がかかりました。それでも1か月もすると、宣言の全文を暗記することができました。

宣言を実践する

せっかく暗記したので、今度は忘れたくないと思いました。そこで朝の運動やストレッチを行うときに、毎日何度も宣言を暗唱しました。そのようにしていると、御霊がある言葉や文を際立たせてくれているような感じがしてきました。その言葉について思い巡らしていると、家族やわたし自身にとって



祝福となるアイデアが浮かんでくるのでした。

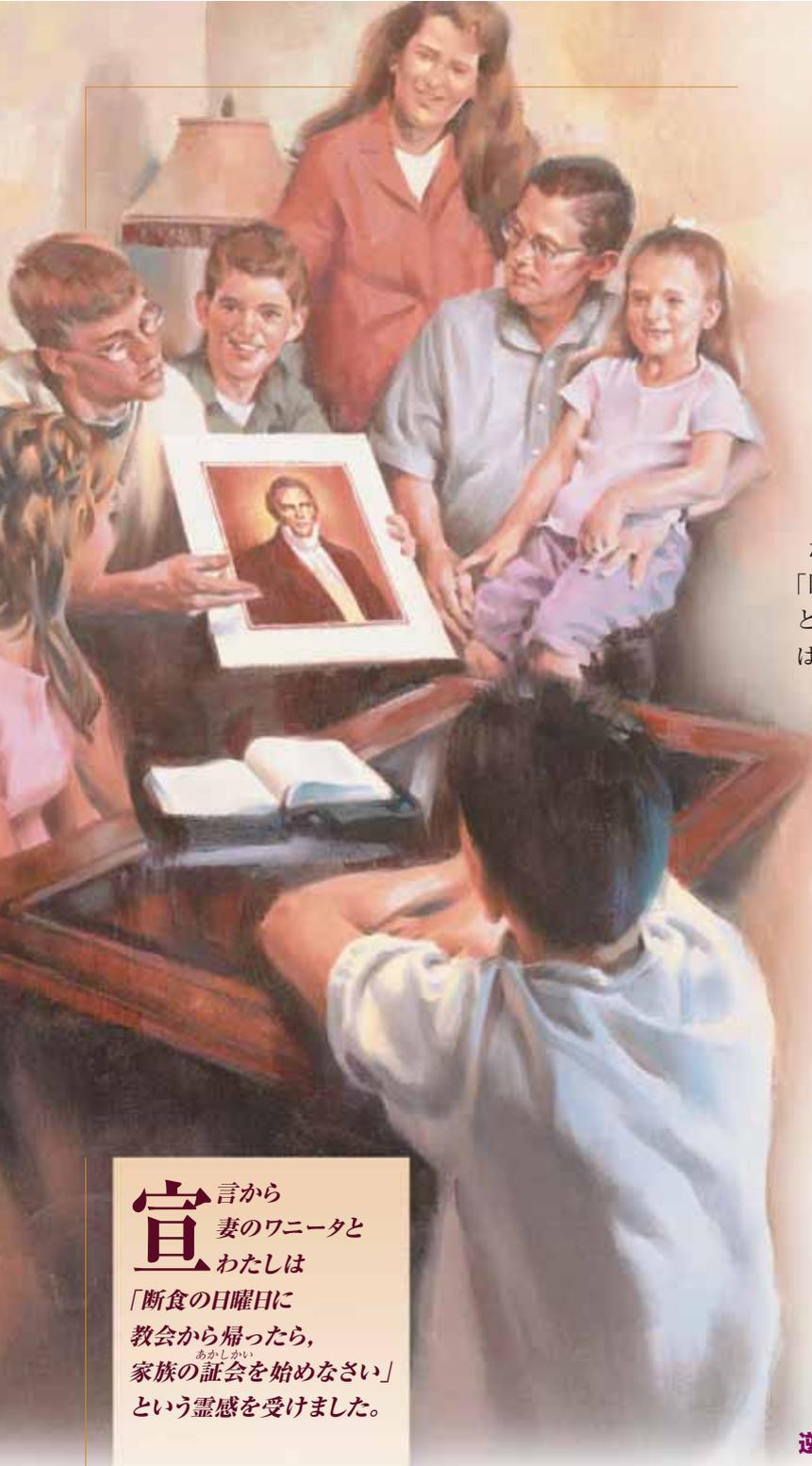
例えば、次の年の夏、10代の娘がいつも一緒にいる友達
のことで、娘のことを心配していました。しかしそのことを話
そうとする度に、わたしの言葉は無視され、娘はわたしを避
けるようになりました。ある朝、ジョギングをしながら宣言
について考えていると、御霊により第7段落の最後の文に強い
印象を受けました。「必要なときに、親族が援助しなければ
なりません」という部分です。走るスピードを落とすと、妹の
姿が浮かんできました。様々な試練を経験してきた妹です。
当時妹は7番目の子供の出産を控えていました。すると今ま
さに、親族である妹の力を借りなければならないという思い
がわいてきました。それでわたしは飛行機のチケットを買い、
娘にこう頼みました。「おばさんの家に行って、1週間手伝っ

てきてくれないか。」

遠く離れた妹の家で興
味深いことが起こりました。
娘は妹の家に滞在し、妹の
家族を手伝うことに喜びを
見いだしたのです。子供た
ちが眠った後で、娘は妹と
いろいろな話をしました。
娘にとって妹と話すことは、
わたしと話すこととは違っ
ていました。わたしがずっ
とできなかったことを妹が
してくれたのです。妹は、
自分が10代のときに下した

ある朝、
娘のことについて
心配していると、
みなま御霊により

「必要なときに、親族が
援助しなければなりません」
という宣言の言葉に
強い印象を受けました。
そのときわたしは、
身重の妹のもとに娘を送り、
妹の手伝いをさせる
必要があると強く感じました。



宣言から
妻のワニータと
わたしは
「断食の日曜日に
教会から帰ったら、
家族の証会あかしかいを始めなさい」
という靈感を受けました。

決断によって一生続く難題を抱えていることを話しました。妹のもとから戻って来た娘はどこか違っていました。娘は祝福につながる選択をし始めました。娘のこの旅から、妹も、妹の家族も、娘も、そしてわたしも、皆が祝福を受けました。そして、この旅を

思いつかせてくれたのは、宣言の言葉でした。

別の折に「両親には、愛と義をもって子供たちを育て、物質的にも霊的にも必要なものを与え……るという神聖な義務があります」という言葉が、心に重くのしかかってきました。わたしの家族は愛し合い、仲良く暮らしていましたが、もっともって霊的に成長できると感じました。宣言の言葉から妻のワニータもわたしも「断食日曜日に教会から帰ったら、家族の証会あかしかいを始めなさい」という靈感を受けました。残念なことに1回目の家族の証会は、子供たちの霊的な必要をほとんど満たせませんでした。どの子もいかにもその場にいたくない様子でした。どんなにおなかすいているかと、何人も不平をこぼしました。末っ子は「いつ終わるの」と何度も聞きました。それでもわたしたちはあきらめませんでした。数か月後には不平もなくなり、もっと霊的な気持ちを感じるようになりました。この家族の証会は神聖な真理を分かち合う貴重な時間になりました。そしてこの時間は「愛と義をもって子供たちを育て」るのに役立っています。

一つのパターンが見えてきました。宣言の言葉を度々復習することで妻とわたしは御霊を受ける経路を築き、そこから家族を進歩させる靈感を得ていたのです。確かに、受けた靈感のほとんどは今述べた例ほど顕著なものではありませんでした。たいていは「ハンナを『父と娘のデート』に連れて行きなさい」とか、「妻のワニータに代わって今晚夕食を作りなさい」「エミリーの話をもっとよく聞きなさい」「もっと頻繁にセスを寝かしつけなさい」というようなものでした。しかし、そのような小さな導きをたくさん受けたおかげで、家庭生活ははるかに良いものになりました。

逆境の中で慰めを受ける

2001年、ワニータは乳癌にゅうがんと診断されました。かなり進行しているため、この先5年生きられる可能性は50パーセントだと言われました。残された最善の選択は、とても苦しい化学療法、外科手術、放射線といった一連の厳しい治療で積極的に癌を抑えることでした。8週間に及ぶつらい化学療法を受けたにもかかわらず、大きな腫瘍しゅようが少しも縮まなかったことを知らされたときには目の前が真っ暗になりました。この試練の間、わたしはジョギングをしながらストレスを解消するために宣言をできるだけ大声で暗唱し、そうすることで慰めを得ていました。

あるとき、ジョギングをしながら「実りある結婚と家庭は、信仰と祈り……の原則にのっとって確立され、維持されます」という箇所に来ると、わたしは足を止めました。ある思いがわき上がり、穏やかな気持ちに満たされました。それは土曜日の朝で、翌日は断食日曜日でした。そのときに受けた靈感は、友人全員に電子メールを送って、化学療法が効くようにワニータのために信仰を込めて断食して祈ってくれるように頼むことでした。信じられないほどの支援を受けました。信仰を異にするにもかかわらず、断食と祈りに関する力強い経験談を紹介してくる人たちもいました。また依頼したわけでもないのに、オーストラリア、日本、ハワイ、ソルトレーク、ボストン、ベルギー、南アフリカの友人たちが、地元の神殿で祈りのリストに妻の名前を加えてくれました。その結果、幾つもの奇跡が起こりました。わたしたち家族はすぐに前向きな気持ちになり、信仰を強めることができました。次の4週間の治療を受けている間に、ほとんどの腫瘍が消滅していたのです。ワニータの治療は終わり、測定可能な癌は一つも残っていませんでした。わたしたちは深く感謝しました。しかしこれで試練が終わったわけではなく、また宣言から得られる慰めが終わったわけでもありませんでした。

2004年の始めに起きた出来事にわたしたちは打ちのめされました。ワニータの癌が再発したのです。今度は両肺に、です。医師は深刻な面持ちで、できるだけ長く癌を抑制してはみるが、今度はばかりは治る見込みはないだろうと言いました。最初、わたしは見捨てられたと感じ、絶望しました。妻とわたしには義になかった願いと人生設計がありました。一緒に伝道に出て奉仕する計画はどうなるのでしょうか。孫たちを霊的に強めたいという願いはどうなるのでしょうか。一体なぜ、わたしたちがこんな目に遭わなければならないのでしょうか。

再び宣言を思い巡らしているとき、今度はまるでだれかが懐中電灯で照らしでもしたかのように、ある言葉が際立ちました。それは、「子供たちは結婚のきずなの中で生を受け、……父親と母親により育てられる権利を有しています」という箇所です。わたしの子供たちは父親と母親によって育てられる権利を有しているのです。この言葉によって、たとえ医学的には見放されたに等しくても、ワニータは奇跡によって祝福され、癒されるという希望が得られました。

進むべき方向を変える

約6か月の間、希望を失わないようにしながら、いたって普通の生活を送りましたが、次第に癌の症状が表に出てきました。ワニータは急激にやせ、絶えず苦しうにせきをするようになりました。ほんの少し動いただけでも呼吸が困難になりました。病状は少しも良くなり、むしろだんだん悪くなるようでした。やがて、妻が生き長らえることは神の御心ではないことが見るからに明らかになってきました。これほど奇跡を切望し真剣に求めてきたのに、神がなぜ癒しの奇跡を起こしてくださらないのか、まったく分かりませんでした。しかし

そのとき再び、宣言の言葉が靈感と慰めを与えてくれたのです。「聖なる神殿において得られる神聖な儀式と聖約は、わたしたちが個人として神のみもとに帰り、また家族として永遠に一つとなることを可能にするのです。」涙があふれてきました。わたしの理解力が広げられ、将来確かに妻が奇跡的な癒しを受けることを悟ったのです。救いの計画のおかげで、ワニータはこの世に別れを告げて美しい世界へ行き、そこで彼女の父親や、先に逝った娘に迎えられ、救い主にまみえることができるのです。イエス・キリストの贖いのおかげで妻は癒され、復活の時が来ると完全な肉体を受け、癌やほかのどのような病から

解放されるのです。わたしはまた、子供たちが永遠に、自分の母親から影響を受け続けることができるということが分かりました。それはもう一つの奇跡です。

子供たちが母親の知恵から学び続けられるように、この世でできることがまだたくさんあると気づきました。この度は、ワニータの肉体に奇跡が起こることは神の御心ではなかったのです。ですから、そのような奇跡を信じ続けるのはやめて、その代わりに、残された短い時間を使ってワニータからできるだけ多くを学ぶことに専念した方が良く強く感じました。「神のみもとに帰り、[わたしたちの家族が]また家族として永遠に一つとなる」ためにもっとよく準備する必要があったのです。家族の証会で妻とわたしが心を込めてこの気持ちを伝えると、皆の心に真理が深くしみ込みました。それからわたしたちは、このことに取り組み始めたのです。

ワニータは回復されたイエス・キリストの福音について証を書きました。わたしも自分の証を書きました。そして二人の写真を添えて、子供たちの聖典のサイズに合うように印刷

「両親には、
愛と義をもって
子供たちを育て、
物質的にも霊的にも
必要なものを与え……る
という神聖な義務
があります。」



し、ラミネート加工を施しました。それから妻は、子供一人一人にあてて長い手紙を自分の手で書き、感謝と激励と助言の言葉を記しました。賛美歌や初等協会の歌、子守歌などをワニータが優しく歌う声を録音して、子供たち一人一人のために、そして未来の孫たちのためにCDを作りました。また、子供たちが神殿に参入するとき、伝道に出るとき、結婚するとき、子供を授かったときなど、特別なときに聞くためのメッセージを録音しました。妻は、未来の孫たちのために赤ちゃん用の毛布とよだれかけをかぎ針編みで作りました。今やわたしたちの生活は進むべき方向が定まり、活気に満ち、御霊から大いなる慰めを受けていました。これもすべて、宣言から与えられた靈感の結果なのです。

「わたしも同じよ」

ワニータが息を引き取るとき、子供たちは皆母親の傍らにいて、いたわりの言葉を交わすことができました。ワニータは他界する10分前まで意識がはっきりしていて、わたしたちと言葉を交わしました。そのとき、わたしは妻に「愛しているよ」と言いました。ワニータはスペイン語で「ロ・ミスモ」と返しました。それは「わたしも同じよ」という意味です。それが妻の最後の言葉となりました。ワニータは安らかに旅立ちました。

10年以上も前の土曜日の夜に初めて宣言を聞いて以来、宣言はわたしと家族に、具体的かつ個人的な方法で様々な祝福を与えてくれました。そのことに驚嘆しています。宣言のおかげで、わたしたちの人生は永遠にわたって変わりました。この宣言は神の言葉です。たとえ底知れぬ試練の渦中にあっても、家庭生活に大いなる喜びと幸福をもたらす基となるのです。わたしは御霊によって知っています。「家族——世界への宣言」は今日^{こんにち}の家族のために与えられた靈感された言葉です。この宣言を真剣に学ぶ人には聖なる窓が開かれて、家族を支える力を受けることができるでしょう。■

E・ジェフリー・ヒルはユタ州オレム・キャニオンビューステーク、キャニオンビュー第5ワードの会員です。

足もとの 子供たち

アイダ・L・ユーイング

とりわけこれと言って何もできなかった日の終わりには、いつも足もとにいて行く手をふさいでいる二人の子供のせいにして、いらいらしてしまう自分があります。助言が欲しくて、姉のトリサに電話をすることにしました。姉はわんぱく盛りの男の子が3人いても、いつも朗らかで落ち着いています。姉は同情を示し、わたしの悪戦苦闘している様子を聞くと自分たちが狭いトレーラーハウスから引っ越した直後のころを思い出すと言いました。

もっと広い家に引っ越したら、子供たちはきっと、流し台の前ではなくどこかほかで積み木のお城を作るだろう、それに、畳みかけの洗濯物の山でかくれんぼを始めることもなくなるだろう、そう姉は考えていました。それがどういうわけか、そうはならなかったのです。子供たちは相変わらず着陸の合図を待つ飛行機のように、姉の足もとを旋回していました。そんなある日、姉はマルコによる福音書第10章13節から14節、16節の聖句を見つけました。その聖句のおかげでいらいらせず済むようになったと教えてくれました。

姉と話した後、わたしもその聖句を読んでみました。

「イエスにさわっていただくために、人々が幼な子らをみもとに連れ

てきた。ところが、弟子たちは彼らをたしなめた。

それを見てイエスは憤り、彼らに言われた、『幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのような者の国である。……』

そして彼らを抱き、手をその上において祝福された。」

わたしは、子供たちが連れて来られる直前に、イエスがパリサイ人から試みられていたことに気がつきました。疲れを見せたり、嫌な顔をしたりすることもおできになったはずです。しかし、イエスは子供たちを歓迎し、その手に抱き、祝福されたのです。

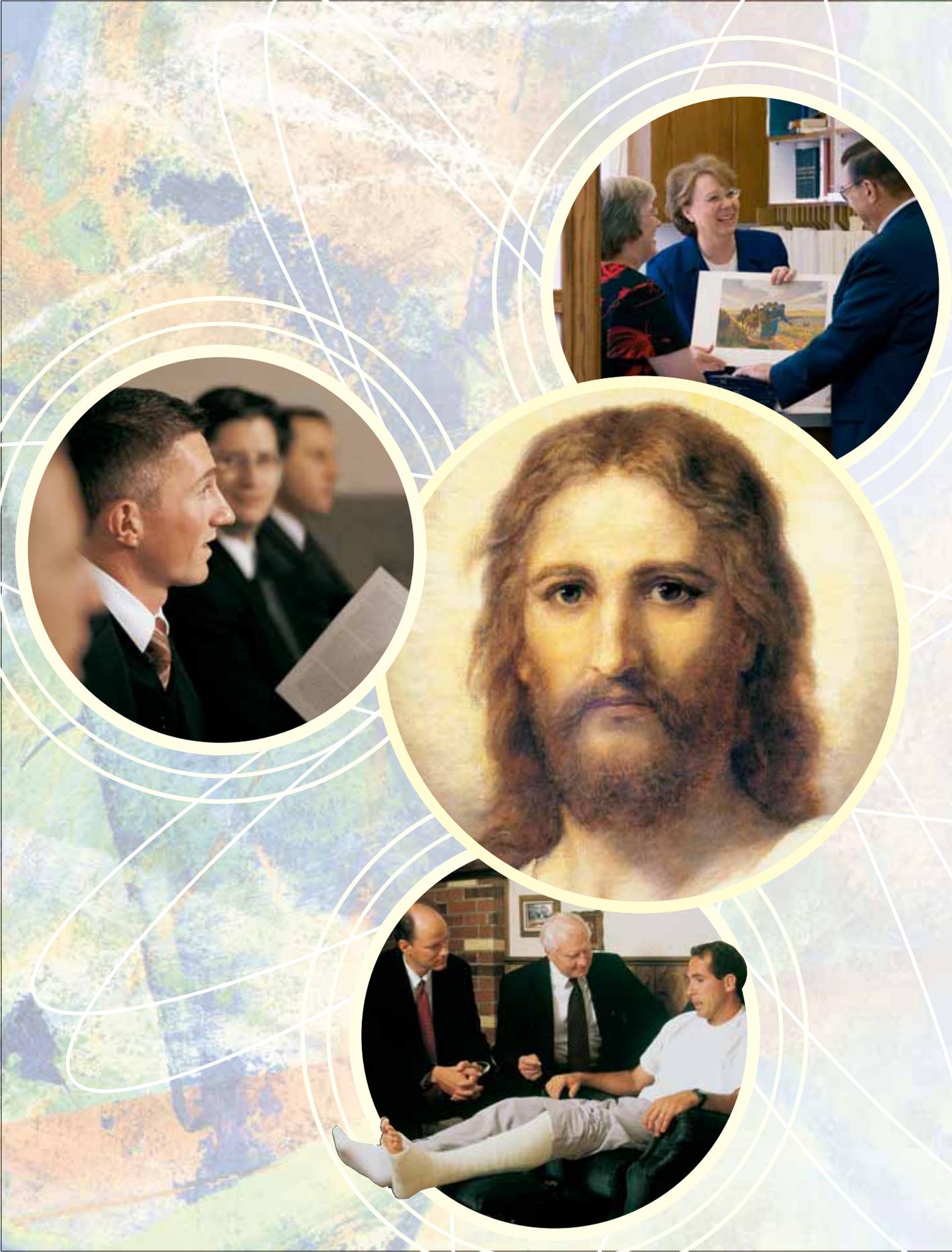
わたしはこの無私の愛の行為について思いを巡らせました。母親であるわたしにとって、どのような意味があるのでしょうか。そして悟りました。わたしは子供をわきへ追いやりすぎたのです。もしキリストの模範に従っていれば、洗濯物や台所の洗いが山になっても、

請求書の支払いがあっても、睡眠時間がわずかしかなくて

も、手を止めて子供たちを腕に抱き、愛することができたはずで、姉はきっとこう言いたかったのでしょう。子供たちを腕の中に抱いていれば、足もとにいるために行く手がふさがれることはないのよ。■

アイダ・L・ユーイングは、フロリダ州フォート・ウォルトン・ビーチステーク、クレストビューワードの会員です。







互いの証が 皆を一つに結ぶ

10代のころから何度も宣教師に会ったことがありましたが、恵まれて34歳のときに真理を見だし、理解し、そして確信を得ました。

長い間わたしはひとりよがり、少年や示現や金版の話を信じることはできませんでした。しかし今は、聖霊の確認を通して、ジョセフ・スミスは神に選ばれた預言者であることを知っています。預言者の偽りない純真さと熱意により、生ける救い主の真実の教会が回復されました。キリストのもとに行くときに、愛する天の父母のもとに戻れることを知っています。

オーストラリア、シドニー
マリアヌス・リップス

あり、扶助協会の働き手です。この業において、皆さんは非常に重要な存在であり、教会が以前にも増して強められているのは皆さんのおかげなのです。』¹

年齢、配偶者の有無、富や貧困、名声にかかわらず、すべての人がキリストの純粋な愛を感じることができます。この愛の力によって生活は変わり、わたしたちは「もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族」となるのです(エペソ2:19)。

聖徒として力を合わせて働く

ワードや支部の会員が力を合わせて働き、互いにキリストのような愛を示すならば、ワードや支部という家族に属する人々はもっと親しい関係を築うことができます。

台湾の新竹では既婚者も独身者もインスティテュートに集っています。李建邦はこう語ります。「日曜日の集会以外にも交われる機会があります。お互いに知り合い、思いを分かち合い、親しくなれるすばらしい場です。」

かつて李兄弟は、ワードの会員と友情をはぐくむのは難しいと思っていました。「しかし、自分のことを気遣い、愛してくれる人がたくさんいると分かってくると、世界が変わったような気がしました。そしてわたしは自分のワードとワードの会員を愛するようになりました。人から奉仕や愛や友情を受けることを期待して待つのではなく、自分からもっと多くを与えるようになりました。」

フィリピンのマニラに住むクリスティン・アモシン・カズンは、友人と一緒に新しいワードに集いました。ある親切な姉妹がヤングシングルアダルトの会員と扶助協会会長、また監督に紹介してくれました。そしてクリスティンと友人は聖餐会で立って紹介されました。二人は歓迎されていると感じることができました。

スロベニアのツェリエに住むナターサ・コクルは語ります。「初めて支部で歓迎を受けたとき、皆さんの愛情深く、思いやりのある様子に驚きました。2度目に会ったときには愛していると言われました。このような経験はそうあるも

のではありません。ここでは両手を広げてわたしを歓迎してくれました。」

カーラ・マルティネスはアルゼンチンのブエノスアイレスに住むヤングシングルアダルトで、新しいワードではだれも気にかけてくれないと感じていました。彼女もワードの会員のことをよく知りませんでした。カーラは家族とともに何度か引っ越していました。中にはつらいときもありました。しかしあるとき、ワードの一人の姉妹が親しく接してくれました。

カーラは言います。「アルダナは誕生日にケーキを作ってくれ、両親とわたしが住む何もない部屋を飾り付けしてくれました。彼女はわたしに最高のプレゼントを贈ってくれました。それは真心からの愛です。」

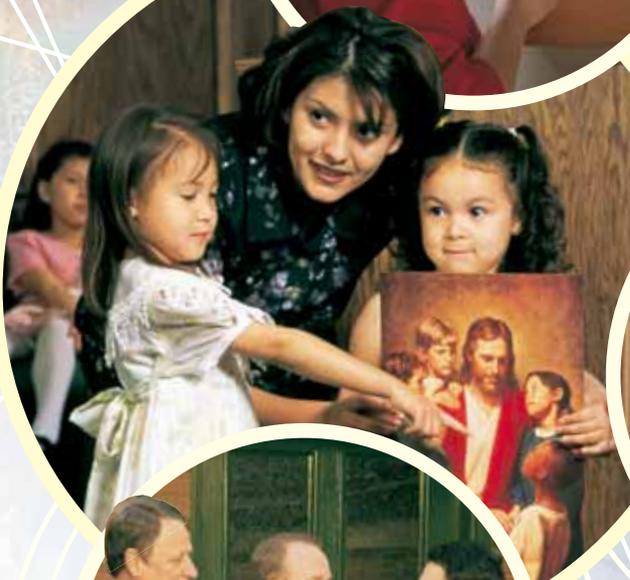
ファン・フォルトゥナートはある会員のおかげで新しいワードの会員と知り合って、早くなじむことができました。フォルトゥナート兄弟は語ります。「その姉妹はステーキにいる文字どおりすべての若い会員に紹介してくれました。まるで新しい家族ができたかのようでした。彼女はわたしがその家族の一人だと感じられるように助けてくれました。そして今、彼女はわたしの妻です。」

独身者のために道を整える

ユタ州プロボに住むジョイス・バガリーは自分自身のことを、地上における主の王国に属している「たまたま独身の」会員であると考えています。彼女は語ります。「会員のほとんどが既婚者である教会において独身であることも、わたしにとっては少しも問題ではありません。当然、結婚している方がいいですが、わたしは独身です。ですからこの状況の中で最善を尽くします。」

彼女は新しいワードに行くと、まず幹部書記に会い、監督との面接を予定してもらいます。そして会員記録を担当する書記に、自分の記録が請求されたことを確認します。

そして「扶助協会の会長に自己紹介をして、訪問教師として奉仕できるように頼みます。最初の断食安息日にはイエス・キリストについて



会員たちは教会で奉仕するときに、 お互いの違いを越えて 帰属意識を持つことができます。

あかし証をし、わたしがどれほど救い主を愛しているのかを話します。ワードの活動にもすべて参加します。受け入れられていないと感じて集会から帰宅することがまれにありますが、そんなときは祈りをささげて、次はいつもの安息日と同じ明るい顔で集うことができ、受け入れてもらえるまで笑顔を保てるよう主に願います。」

テキサス州サンアントニオのジュリー・ジルは、独身と既婚の両方の姉妹たちと親しい関係を築いています。彼女は語ります。「福音にはわたしたちを結びつける偉大な力があります。けれども既婚者は、すべての独身会員が必ずしも同じ枠にはまらないということを忘れてしまったり、独身会員は独身者としか友情をはぐくめないと思ったりする場合があります。ある姉妹から『あなたはとても若いわ』と言われました。でも彼女はわたしと同じ年齢で子供が二人いました。このような思い込みはよくあることですが、わたしたちは互いの違いを受け入れ、助け合うことができます。」

奉仕の召し

コートニー・マクレガーは妻の不慮の死からしばらくしてソルトレーク・シティに越して来ました。仲間に入れるように、彼は2マイル行くよう努めました。「何かの責任に召されなく

ても奉仕の機会はどこにでもあります。わたしはよく聖餐の手伝いを自分から引き受けました。そうするとすぐには知り合えなかったであろう人たちと話す機会ができました。また神殿の清掃も申し出ました。わたしの経験では独身でも既婚でも違いはなく、友人はどこでも見つかります。

テキサス州サンアントニオのカトリーナ・ヤングも同じような考えを持っています。「わたしは自分も仲間だと感じたいのです。それでレッスンに出席し、責任を引き受け、家庭訪問に出かけ、教会堂の掃除を引き受け、ワードの会員を車で送迎し、活動に参加し、毎週一家族かだれか一人の名前を覚えるように努力しています。そして分かったのは、人から奉仕を受けているのはむしろわたし自身だということです。



福音にあつて いるべき場所

わたしはヤングシングルアダルトの活動が大好きです。知り合い、デートをし、やがては結婚に至れるように、教会はたくさんの機会を与えてくれます。教会の指導者は、わたしたちの年代の会員について常に考えてくれています。彼らの愛に感謝します。若かったり独身でいたりするために、のけ者にされることは決してありません。わたしたちは福音のあらゆる側面において、いるべき場所があるのです。

カナダ、
ブリティッシュコロンビア州
ビクトリア
ホリー・スミス

年配の会員を見守る

アネリス・スコットはカリフォルニア州アーバインにあるワードに越して来たばかりでした。ほかにも夫と死別した年配の姉妹たちが何人か転入して来ました。だれもお互いのことをほとんど知りませんでした。そんなあるとき、ワードの二人の姉妹が皆のために昼食会を企画しました。その日から年配の姉妹たちは仲良くなり、教会の集会では一緒に座り、誕生日を祝い、車に乗り合わせて活動に出かけ、お互いの必要を満たすために助け合っています。

「初めて扶助協会に来た年配の姉妹たちに目を配り、名前と電話番号を聞いて、教会には活発に、またわたしたちの小さな集まりにも楽しく参加してもらえるように心がけています。」スコット姉妹はそう語ります。

内気な人のために

ワードや支部には社交性に富んだ会員もいれば、そうでない人もいます。監督や支部長と話すことにより、独身の会員はワードや支部にもっとよく溶け込むことができる場合もあります。

「自分の殻を破って、自分から教会にいる独身や家族の会員、さらには初等協会の子供とも親しくなれるように努めるならば、皆から愛され、深い愛をもって考えてくれていることが分かるでしょう」と台湾の高雄に住む楊舒文は語ります。

スーザン・バックルズはアメリカに住むラテンアメリカ系の兄弟姉妹の集まりに参加したとき、独特な踊り方に目を留めました。「踊る相手のない人がいれば、その人の手を取って一緒に輪になって踊ります。おかげで人との違いなどすっかり忘れて、皆が仲間だと実感できるのです。」

救い主の方を向く

聖徒を一つに結び合わせるものは、何でしょうか。

「キリストの純粋な愛によってわたしたちは神の家族となります。」台湾の新竹に住む黃

インリン 盈綾は言います。救い主に目を向けるなら、わたしたちは一つとなれるのです。

カリフォルニア州コスタメサのロジャー・ボグは語ります。「独身者をワードや支部の皆と一つに結び合わせるものは、すべての会員を一つに結び合わせるものと同じです。それはイエス・キリストへの証です。救い主は御自分のもとに来るようならゆる人を招いておられます。ですからふさわしい独身会員はすべて、神殿の祝福をはじめとする福音の祝福を受けるでしょう。そして現世ではまだ受けられていないにしても、永遠の結婚を含む祝福を、希望をもって待ち望むことができるのです。」

友情と愛が一つとなるとき、独身者と家族は年齢に関係なく、互いに仕え合い、互いの必要に心を向け、「互いに和合し、愛し合って結ばれた心を持つ」のです(モーサヤ18:21)。その結果として、皆が祝福を受けるのです。■

キャスリーン・ルーベック・ピーターソンはユタ州ノースソルトレークステーク、フットヒルワードの会員です。

注

1. *Teachings of Gordon B. Hinckle* (1997年), 605



解任の面接

オフエリア・J・フルタード

ある人との特別な会話がわたしの霊的な成長にとって大きな祝福となりました。そのときの会話はこれからも永遠にわたって祝福となるでしょう。その会話とは、伝道を終えるときに伝道部長から受けた面接のことです。伝道部長はわたしが故郷に帰ってから経験する変化について話してくれました。「教会に熱心であり続けなければ、いつも何かしら召しを果たす必要があるから、召し与えられない場合は監督に相談しなさい」と言われました。伝道部長はもう一つ助言してくれました。さらに力を込めてこう言ったのです。「神殿結婚でなければ結婚してはなりません。」

その助言に忠実に従いました。神殿外の結婚に心が傾きそうになったときには、いつも伝道部長の言葉を思い出しました。伝道部長の言葉を思い出すと、神殿結婚の決心を貫く勇気がわいてきました。

帰還宣教師が苦しむのは、たいいてい早く結婚したいと望むからです。ワードや支部の会員から「どうしてまだ結婚しないの」と聞かれると、もっとつらくなります。伝道から帰ってしばらくしても結婚していなければ、傷つくような言葉を耳にするようになり、腹立たしくなったり、悲しくなったりすることがあります。

それでもわたしは、必ず神殿で結婚するよという賢明な助言をくれた伝道部長に感謝しています。その助言に従ったおかげで今祝福を受けてい

ます。伝道が終わって10年が過ぎたころ永遠の伴侶に巡り会い、2000年にベネズエラ・カラカス神殿で結婚したのです。すばらしい経験でした。この日が来るまで、主の僕の言葉を信頼するというわたしの決意を曲げさせるもの

は何もありませんでした。

幸運にも、わたしには今若い娘がいます。娘は聖約の子として生まれました。娘にそのような祝福を与えることができ、うれしく思います。娘を見ると、伝道部長との会話から受けた祝福の大きさを感ずることが出来ます。■

オフエリア・J・フルタードはベネズエラ・マラカスステーク、テリシアスワードの会員です。

伝道の最後に
伝道部長から
受けた助言に
感謝し続ける
ことでしょう。



化粧品か、^{じゅうぶん}什分の一か

シャーロット・アーノルト

化粧品会社に入社して1年目のことでした。離婚して、二人の子供と一緒に暮らしていました。12月になると、すべての販売員のところに会社からクリスマス商品の入った大きな箱が送られてきました。クリスマスシーズンに販売せよとのこと。その分、給料がかなり減額されていました。その月の出費と什分の一を計算してみると、3人が暮らすには十分でした。ただし、1週間だけなら。その額で12月の1か月間に必要な食料品と、仕事で使う車のガソリン代を賄わなければならないのです。

ホームティーチャーが来たときに事情を伝え、什分の一を納めると家族を養えなくなるので納められないと話しました。ホームティーチャーは強い信念の持ち主で「それでも什分の一を納めるように」との助言をくれました。忠実に納めれば主が必ず祝福してくださると言うのです。わたしのホームティーチャーはずっと忠実で信頼できる人でした。「食べ物が買えなくなったら、兄弟のところに助けても

らいに行きますよ。」わたしは冗談半分にそう言いました。でも心の中では彼の言葉を信じていました。また、忠告を無視してがっかりさせたくなかったのです。結局わたしは什分の一を完全に納めました。

月初めにそのクリスマス商品を持って得意先を訪問すると、飛ぶように売れました。月末にはクリスマス商品だけでなく、何か月も売れなかったものまで全部売れてしまいました。もしも手もとに商品がもつとあったら、それも全部売れていたでしょう。

ホームティーチャーの約束どおりになりました。

主がほんとうに天の窓を開いてくださったのです。その月の収入は家族の必要を上回るほどでした。クリスマス商品の売れ行きはどうだったか後で同僚たちに尋ねてみると、皆から思わしくなかったという返事が返ってきました。不景気のため、化粧品業界の売上は大幅に減少していたのです。

あのすばらしい助言をくれたホームティーチャーにどれほど感謝していることでしょう。わたしはあのとき、什分の一に対する強い証^{あかし}を得ました。訪

問教師として、訪問先の姉妹から什分の一を納める余裕はないという言葉が聞かれます。そんなときには、什分の一を納めることでどれほど祝福されるか自分の証を伝えることにしています。■

シャーロット・アーノルトはドイツ・ドルトムントステーク、エッセンワードの会員です。

月給から
かなりの額が
引かれたので、
1週間分の
生活費しか
残りませんでした。



あなたたちの本は 真実の本です

アン・キュー

宣教師がわたしの家のドアをノックしたあの日は、人生の転機としていつまでも心に残るでしょう。子供のころから信仰心の篤かったわたしは、とりわけ人生の意味を探していたわけではありません。7年間修道院で過ごしましたが神に近づけたとは思えず、修道院を出ました。それでも教会の人たちとの交わりを保ち、聖歌隊に参加したり、その教会の教義を教えたりしていたのです。

実を言うと、戸別訪問をする宣教師とは宗教の話を一切しないといつて固く心に決めていました。聖文の解釈が違いたいって言い争いになるからです。しかし慈しみ深い主は、宣教師の訪問を受け入れられるようにわたしの心を備えてくださいました。宣教師が訪ねて来る数か月前に、ある人から「モルモンの本」は南アメリカの神話に関係があると聞いたのです。わたしはその書物を調べてみたいと思いました。以前研究したテーマについて何かしら情報が得られるかもしれないと思ったのです。でもそのときは、頭の片隅に置いておくだけで特にそれ以上のことはしませんでした。「そのうちモルモンの本を読んでその神話の信憑性を調べてみよう」という程度にしか考えていなかったのです。

あの日ノックする音を聞いて戸口に向かったわたしの頭には、本や神話のことなどまったくありませんでした。当時のわたしは子育てに忙しく、小さな赤ん坊と元気な3歳の息子の世話にエ

ネルギーの大半を奪われていました。でも、戸口に向かう途中である光景が、示現とも言えるくらいにはっきりと、頭の中に迫ってきたのです。アブラハムが天幕の外へ出ようと出入口へ向かっ



ています。これからあの重大な知らせを受けようとしているのです。わたしは、このドアを開ければ大切なメッセージを受けることになるという予感がしました。

しかし、そこにいたのは末日聖徒の宣教師の名札を付けた二人の青年でした。肩透かしを食らったような気持ちになりました。もし直前にあの「示現」を見ていなかったら、丁重にお断りしてドアを閉めていたところでした。でもわたしは、この二人が何を伝えるのか確かめてみたいと思いました。

話し合いは最初からうまく行きませんでした。片方の青年が預言者を信じているかと聞いたので、もちろん信じていると答えたところ、彼らが15人のスーツ姿の男性の写真を見せて、預言者と使徒が今も地上に存在すると宣言したのです。その瞬間に、信じる・信じないの次元を超えてしまいました。

わたしが子供のころから信じてきた宗教では、聖職者

若い宣教師
若たちがやって来たとき、二人に伝えたいとても大切な話がありました。

「あなたたちの本は真実の本です。」

は特別な法衣を身に着け、スーツなど着ません。

それでわたしは寛大にもその宣言を無視することにし、まだ脳裏にいきいきと焼きついているあの「示現」は何だったのかを探ることにしました。

何がきっかけだったか忘れましたが「この『末日聖徒』の宣教師たちは『モルモン』の本について何か知っているかもしれない」と感じました。そう感じるやいなや、聞いてみました。

「何か本をお持ちじゃないですか」と尋ねると、やはりあの本を持っていました。「図書館でも見つからなかったし、どこで手に入れたらいいのかわからないんですよ。」少し期待しながらそう言うと、彼らは期待にこたえてくれました。翌週本を持って来てくれるというのです。わたしは心の中で自分に言いました。「やっぱり宗教的な『話し合い』はできないわ。本を頂くだけにして、そのまま帰ってもらうことにしよう。」

ついにその本が手に入り、わたしは青年たちにお礼を言いました。彼らがわたしの質問に答えるために再訪すると申し出たので、深く考えずに同意しました。その夜、夫が仕事から帰り子供たちが寝静まった後で、本を取り上げて読み始めました。

その中に書いてあることについて何の予備知識もありませんでした。畏敬の念と、衝撃と、喜びと、多少の混乱が交錯する中、すぐ夫にこの甚だ驚くべき発見を伝えました。「これは聖典だわ。」

疑う余地はありませんでした。長年にわたって聖文を真剣に学び、世界の宗教書を随分読んできたので、この書物を読んだ瞬間に理解しました。これは神話でも古代史の記録でもなく、真実神の言葉以外の何ものでもないということ。この神の言葉は霊的な声で語りかけてきました。そして、脚注を参照して興味あるテーマについて調べてみると、何年も納得がいかなかった神学上の多くの疑問が解けました。まさにこの書物は、これまで手にしたどの書物にも勝って胸を高鳴らせてくれました。どのページを開いても驚嘆し心が高まりました。

約束どおりに若い宣教師たちが再びやって来たとき、わたしは家にいました。二人に伝えたいとても大切な話がありました。二人にとっても知っておかなければならないことのはずです。わたしは言いました。「あなたたちの本は真実の本です。でもどうしてあなたたちの教会がこの本を持っているのですか。」彼らの教会がこの書物を所有しているとはまったく信じられなかったのです。

このときわたしは二人の話聞いてみたいと思いました。何か月も学んだ

末、このすばらしい書物は期待を大きく上回る光と知識を授けてくれることを知りました。この書物を通して、わたしは完全な福音と神権の力に導かれました。そしてこの書物は教えてくれました。スーツに身を包んだあの15人の男性こそ、イエス・キリストの真の教会が再び地上に存在している証なのだ。■

アン・キューはウイスコンシン州マディソンステーク、マディソン第4ワードの会員です。

福音の中で 成長する

ドーグラス・ザルド

妻とわたしは子供たちに天の御父に祈ることを教えていましたが、どこかの教会にきちんと通ってはいませんでした。家庭で神に愛を示せば同じことだと思っていたのです。しかし1997年3月の初旬、二人の若い宣教師がわたしの事務所にやって来たときに生活は変わり始めました。

宣教師は特別な贈り物があると仰いました。わたしは、夜なら家族全員が家にいるので、今夜家に来てほしいと伝えました。その夜、彼らは霊的な話だけでなく、モルモン書という贈り物を持って来てくれました。

それから数週間のうちに宣教師は我が家を何度も訪れてくれました。わたしたちは真心から祈ることを学び、それまで知らなかった主の戒めを学び、そしてイエス・キリストの真の教会の会員になるように勧められました。バプテスマが教会に入る最初のステッ

プとなるのです。

妻とわたしは1997年3月26日にバプテスマを受けました。バプテスマから3か月後、わたしは日曜学校の会長の召しを受けるようにと監督から言われました。「まだ準備ができていないので召しを果たすことはできません」と言って断ろうとしましたが、監督からこの責任を受け入れるように説得され、日曜学校の手引きを渡され、読むようにと言われました。

2か月後のある日、福音の教義クラスの教師から電話がかかってきました。今度の日曜日には教会に行けないので、教義と聖約第98章のレッスンはできないということです。そして代理で教えられそうな人を3人教えてくれました。わたしはその3人に連絡を取りましたが、全員すでに予定が入っていました。最後の人との電話を切ったとき、天の御父がわたしにこのクラスを教えることを望んでおられると感じました。

わたしは教義と聖約について詳しくはありませんでしたが、第一副監督の助けを借り、ワード図書館と教師用手引きを利用してレッスンの準備をすることができました。

緊張しました。自分よりも福音についてよく知っているワードの会員に教えるのです。しかし、教会員となって日が浅いわたしでしたが、天の御父に祈れば御父が助けてくださるということは知っていました。日曜日が来ました。クラスが始まる前に、平安と力を求めて祈りました。教室に入ると兄弟姉妹がにこやかにわたしを受け入れ、助けてくれました。全員が積極的に意見を発表し、この重要なレッスンを教えるために主の御霊がわたしを祝福していたのを感じました。

この経験を通して、天の御父は、御

父と会員の助けがあれば必ず果たせる責任しかお与えにならないことを確信しました。

8か月後、メルキゼデク神権を受けました。そのころ、教会員ではない息子のアンデルソンの首に皮膚炎が起きました。3人の医師の診察を受け、抗生物質で治療を受けましたが、治る気配はありませんでした。

わたしは、神権には息子を助ける力があると信じていたので、息子に神権の祝福について説明しました。しかし息子は祝福を受けたがりませんでした。薬ですぐに治ると思っていたので

す。何か月もたって、ついに息子はわたしに祝福を求めてきました。

このような方法でわたしが神権を使ったのは初めてでした。5日後、アンデルソンはとてもうれしそうにわたしの部屋に入って来ました。首はすっかり治っていました。

バプテスマを受けて1年目の記念日が間もなく来るというとき、わたしはワード伝道主任として奉仕する召しを受けました。このときは召しを受けるのに何の躊躇^{ちゆうちよ}もありませんでした。妻は扶助協会の第二副会長に召されました。

1998年4月、わたしたちはブラジル・サンパウロ神殿で結び固めを受けました。天の御父と新たな聖約を交わしたその日のことを、わたしたちは決して忘れることはないでしょう。

結び固めを受けた1か月後、ステーク大会があり、新しいステー

ク会長会が召され、支持されました。わたしたちの監督はステーク副会長に召されました。大変驚いたことに、ワードの新しい監督として奉仕するようにわたしが召されたのです。ただただ驚き、不安になりました。でも、召しについては何の疑いもありませんでした。それどころか、この召しを受け入れたとき、わたしには、神が祝福してくださり、監督の召しを果たせるように助けてくださいるという確信がありました。

監督として、わたしたちは全世界にイエス・キリストの教会を打ち立てているということを学びました。また主は、預言者、聖見者、啓示者を通して、福音をすべての国、民族、国語の民にもたらず責任をわたしたちに与えておられることも知りました。

妻とわたしが福音を受け入れたことで、生活が変わりました。神殿で天の御父と交わした聖約に忠実ならば、御父はこの地上での生活を祝福し、召しを通して強くしてください、最後にはみもとに受け入れてくださることを、わたしたちは知っています。■

ドーグラス・ザルドはブラジル・サンパウロ・サントアマロステーク、インディアノボリスワードの会員です。

緊張しました。
自分よりも
福音について

よく知っている
ワードの会員に
教えるのです。

しかし、祈れば
御父が助けてくださる
と知っていました。



最高のカムバック

クラスの仲間が
ミューチャルの
活動で
傷つけられたら
どうしますか？

リチャード・D・ホークス

ワードで青少年の指導者として奉仕していたときでした。ある夜、教会へ行くと、いつものように何人かの少年が集会の開会行事が始まるまでバスケットボールをしていました。驚いたことに、そこにはデビッドがいました。デビッドはこのワードに集うようになって日が浅い方でしたが、教会の活動にはすでに興味を示さなくなっていました。若い男性の活動に来ることは大きな一歩だったのです。

デビッドは注目を浴びることもなくグループにうまく溶け込んでいましたが、突然ボールがリングに当たって跳ね返り、デビッドのところに飛んで来たことで状況は変わりました。デビッドはボールを受け止めるとシュートしなければならないと覚悟を決め、数回ドリブルしてぎこちない動作でボールをリングに向けて投げました。ボールはリングの下に強く当たって跳ね返り、頭に当たらないようデビッドがかざした手にぶつかりました。皆が笑うと、デビッドも一緒に笑って笑いました。

ボールは別の少年のところへ飛んで行きました。するとこの少年はデビッドのぎこちないシュートをからかうように、そのままをしました。さっきと同じように、ほとんどの少年は笑いま

したが、デビッドは笑いませんでした。祭司定員会のメンバーになるために来たのに、笑い者にされたのです。

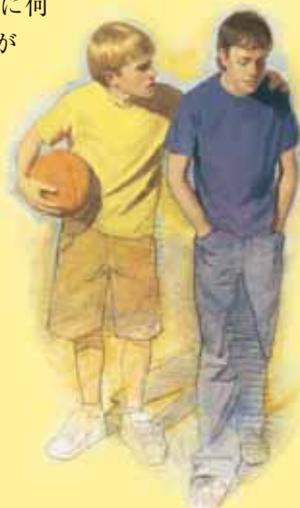
デビッドは出口の方に向かって歩き始めました。

デビッドのことを考えると胸が痛みました。どうしたらよいか分かりませんでした。何とかして彼をとどませなければならぬと思いました。何と言ったらデビッドが戻って来る勇気を持てるだろうかと考えながら、後を追いました。

デビッドを追いかけて行くと、驚いたことに祭司のデニスがわたしのそばを走り過ぎて、デビッドの肩に腕を回したのです。デニスが何を言ったのか知りませんが、きっと靈感を受けたのでしょう。デビッドの心は和らぎ、ためらいがちに、でも自分から教会に戻って来ました。それはすばらしい瞬間でした。

それからほんの数週間後に、同じようなことが起こりました。ワードの会員が演劇発表の練習をしていました。若い男性の多くも参加しており、祭司のトッドも出演者の一人でした。練習中、だれかがふざけてトッドの演技のまねをしました。トッドは傷つき、意気消沈して出口に向かって歩き始めました。

「まただ!」と思いました。わたしはいたたま



れずに、トッドの後を追いかけて、
機嫌を直して戻って来るように
言いに行きました。

次の瞬間、素晴らしい
ことが起こりました。

今回はデニスではなく、
デビッドがわたしの
横を走り過ぎて行った
のです。わずか数週間
前には傷つけられたデ
ビッドが、今度は元気づけ
る側に回っていました。デ
ビッドはトッドに近づき、肩に
腕を回して、戻って来てほし
いと言いました。トッドは納
得して数分後には二人並
んで舞台上に立っていま
した。デビッドは今度は
仲間をとどまらせるこ
とができたのです。

このようなアロン神
権者の模範を見たとき、
十二使徒定員会の
ニール・A・マッ
クスウエル長老
(1926-2004年)の
言葉を思い出しま
した。「わたした
ちは自分の小さな
問題に忙しすぎて、
励ましや親切、称賛な
ど助ける方法を知りながら、
相手の重大な問題に気づかずにいます。
最も助けや励ましを必要とする人は、
落胆のあまりそれを求めることすらできないのです。」
〔「御父の御心みこころにのみ込まれる」
『聖徒の道』1996年1月号、24-25〕

デビッドも助けを求められずにいました。けれども、
一人の若い男性の無私みこころの行いによって、今度は人を助
け励ます側に回ったのです。■

リチャード・D・ホークスは、ユタ州サウスジョーダン・カントリークローッシング
ステーキ、カントリークローッシング第2ワードの会員です。



質疑応答

「学校の友達はわたしが教会員だということを知っていて、いつも嫌がらせをしたり、からかったりします。どうすればいちばん上手に対処できますか。」

『リアホナ』からの提案

キリスト・イエスにあって信心深く生きようとする者は、みな、迫害を受ける。」(2テモテ3:12) 主の弟子は度々迫害に耐えなければなりません。ニーファイやモロナイやジョセフ・スミスのことを考えてみてください。主御自身でさえもあざけられ、「侮られて人に捨てられ」ました(イザヤ53:3)。今日でもまだ、末日聖徒が迫害されることは時折あります。

この問題に対処するには二つの方法があります。一つは嫌がらせを気にしないこと、もう一つはあなたをからかう人と話し合うことです。いずれの方法を取るにせよ、どのように対応したらいちばん良いのか導きを求めて祈り、模範を示してください。両親に助言を求めることもできます。ワードや支部に同じような経験をした人がいれば、どのように対処したのかを聞くのもよいでしょう。

学校を卒業したらその子たちに会わなくても済む場合には、嫌がらせを無視することもできるでしょう。それまでの間は忍耐して、強くなれるように祈り、あまり思い悩まないように努力してください。

しかし、当分の間その子たちと顔を合わせなければならない場合には、嫌がらせについ

祈ってから、嫌がらせを気にしないか、さもなければ嫌がらせをする人と話し合うかを決めてください。

自分と自分の信仰を守るときに、嫌がらせをする人を傷つけたりからかったりしないでください。

救い主の模範に従うように努力してください。親切で、忍耐をもって、寛容になりましょう。模範になることは、証を分かち合う方法の一つです。

「わたしの名のために迫害される人々は皆、幸いである。天の王国は彼らのものだからである。」(3ニーファイ12:10)

てその子たちと話してみてもはどうでしょうか。時にはわたしたちが何を信じているのかわからないために、教会を物笑いの種にする人がいます。そして「君たちはキリストを信じていないだろう」とか、「アルコール飲料を飲まなければ楽しくない」などと言います。このような場合には、イエス・キリストを信じていること、そしてイエス・キリスト教会の会員であることを伝えてください。また、自分の選択によってアルコール飲料を飲まないこと、そしてアルコール飲料を飲まなくても楽しむことはできると伝えてください。

嫌がらせを受けたときには、救い主の模範に倣ってそれにこたえてください。主は御自分を傷つけた人に腹を立てたり、仕返しをしようとはなさいませんでした。彼らを愛して、怒りを表されることはありませんでした。励ましが必要なときには、使徒ペテロが主の模範について教えているペテロの第一の手紙第2章20節から23節を読んでください。

この試しのときに主の助けを求めるなら、信仰を強め、意地悪をする子供たちにキリストのような模範を示す機会とすることができます。人の生活は主に対するその人の信仰の象徴である、とゴードン・B・ヒンクレー大管長は次の



ように述べています。「主に従う者であるわたしたちが、下品で、卑しく、見苦しい行いをするなら、主の面影を汚してしまうことになります。逆に、善い行い、憐れみと惜しめない愛の行いをするなら、キリストの象徴をさらに明るく輝かすことができます。わたしたちはキリストの御名を受けているのです。わたしたちは、自分たちの生活を意義深いものとし、それをもって象徴としなければなりません。生けるキリスト……への証を、各自の生き方を通して宣言しなければならぬのです。」(「わたしたちの信仰の象徴」『リアホナ』2005年4月号、6参照)

読者からの提案



もしわたしがあなたの立場にあったとしたら、屈辱を受けても仕返しをしないで我慢するでしょう。彼らは自分が何をしているのか知らないからです。良い模範となり、言葉でも行いでも最善を尽くすと思います。

トンガ、ヌクアロファ
フェオファアキ・L、15歳

この状況を、模範によって福音を伝える機会ととらえてください。主にあって彼

らに良い模範を示せるように、苦難の中で忍耐強くありなさいと、主は勧告しておられます(アルマ17:11参照)。

フィリピン、レガスピ
リア・N、19歳



ののしる人を言葉でも行動でも脅かしてはなりません。わたし自身、高校時代を振り返ってみて、主への確固とした望みと、主と

主の戒めへの愛を持っていなかったなら、実際にあのあざけりに耐え抜くことはできなかったと思います。卒業式の日

に学校を後にすると、ほとんどの人には

二度と会うことはないでしょう。主の標準に忠実であったことに誇りと強い証をもって世に出て行こうと心に決めてください。

カナダ、ケベック州モントリオール
サミュエル・B, 19歳

この問題の解決策は天の御父に強い信仰を持つことです。天の御父は、わたしたちがもっと強くなれるように試練を受けることを許しておられるのかもしれませんが。天の御父はすべての子供たちを愛しているので、わたしたちを訓練されるのだと思います。人の言うことはあまり気にしない方がいいと思います。あまり気にすると、戸惑ったり恐れたりするもたになります。でも、友達に模範を示し続けなければなりません。すべての真理に対する証人として堅固に立ち、正しい標準に従って生活すべきです。

タイ、コンケン
アペチャード・S, 18歳



気持ちはよく分かります。わたしも学校で、変わっていて、いい子「すぎる」と思われています。悪い言葉を使うこともないし、良くないこともしないからです。とても孤独でした。でも教会員ではないけれども、優しい女の子たちと友達になりました。今では、何か助けが必要なときには、みんなわたしのところに来ます。わたしが教会員で、決してうそはつかないし、信用できると知っているからです。

ブラジル、イタチバ
エステル・K, 11歳

嫌がらせに立ち向かうには、その人たちのために祈り、教会と教会で学ぶ原則について親切な態度で話すなどの、単純な方法を取ることができます。常に親切と慈愛の模範となり、あなたの信仰がその人たちの非難やいじめよりも強いことを示してください。この方法にはきっと効果があります。わたしは自分でもこの方法を取ったのですが、級友は教会員としてのわたしを理解して、尊敬してくれました。

パラグアイ、アスンシオン
カレン・P, 18歳



この世の試練には意味と目的があります。

預言者ジョセフ・スミスについて考えてみてください。ジョセフは生涯を通じて、希望を打ち砕かれるような逆境に遭いました。病気、事故、貧困、誤解、偽りの告発、そして迫害さえ受けたのです。……さらに救い主ようになるには、各人が一定の経験を
得なければならぬのです。現世という学校の訓練はしばしば苦痛と試練を伴います。けれどもその教訓は、人の不純物を取り除いて祝福を与え、強めることを目的としており、決して減らすことを意図しているではありません。

十二使徒定員会
ロバート・D・ヘイルズ
「苦難の中で信仰により得る平安と喜び」
「リアホナ」2003年5月号、
17参照



教会員として、わたしたちは真理について知らない人を助けなければなりません。わたしも級友にからかわれたり、教会についていろいろ言われたりしました。嫌な気分になりましたが、信仰をもって祈り、友達が理解する手助けができるようにと天の御父に助けを求めました。以前には友達を助けましたが、今では友達に支えられています。

ホンジュラス、コマヤグエラ
リケイ・R, 14歳

リケイ・R, 14歳

教会員であるために嫌がらせを受けるとということがどんなことなのか、よく分かります。わたしの経験から言うと、福音や教会を恥と思わずに、自分の道徳や標準を守れば、あなたをからかっても無駄なことがみんなに分かるでしょう。嫌がらせをする人たちには、あなたが心から信じていることが分かっているだけで。

アメリカ、ユタ州ウエストジョーダン
ケリー・E, 18歳

本誌の答えは、問題解決の一助となるように意図されたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

あなたの意見を聞かせてください

青少年の読者の皆さんへ——下記の質問に対する意見を、氏名、生年月日、ワードおよびステーク(または支部および地方部)を明記のうえ、写真を添えて(写真掲載に対するご両親の許可書とともに)、下記まで郵送か電子メールでお送りください。

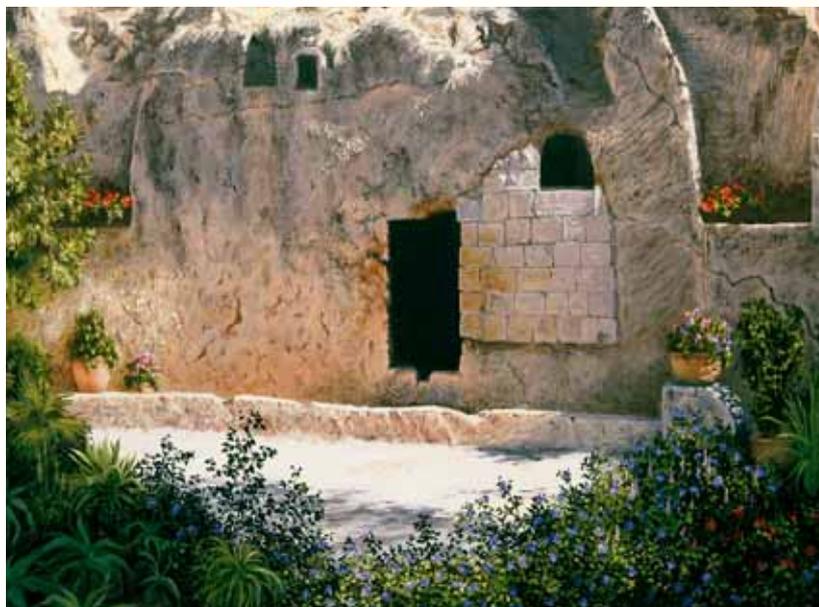
あて先——Questions & Answers 5/06
50 E. North Temple St., Rm. 2420
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
電子メールアドレス——

liahona@ldschurch.org

2006年5月15日必着で送付してください。

質問

「教会の友達の一人が福音の標準を幾つか守っていません。とても心配です。どうしたら助けることができるのでしょうか。」■



復活は「人類の歴史の中で最も偉大な奇跡でした」とゴードン・B・ヒンクレー大管長は述べている。「イエスはかつて『わたしはよみがえりであり、命である』と語られたことがありましたが、人々にはそれが理解できませんでした(ヨハネ11:25)。しかし、今初めて彼らはその意味を悟ったのです。悲しみと苦しみ、孤独のうちに亡くなった主が、その3日後には力と美と命をまとい、死の眠りに就いた人々の初穂としてよみがえられたのです。イエスの復活は、『アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである』という保証を、あらゆる時代の人々に与えるものでした(1コリント15:22)。」「園から空になった墓へ」8ページ参照